SB06600

ＪＡ女性組織仲間づくり検討委員会報告書

いつでも！　楽しく！

フラットな仲間づくり

～ＪＡ新時代の女性組織のあり方～

令和７年７月
一般社団法人　家の光協会

ＪＡ女性組織綱領・５原則

ＪＡ女性組織綱領

一．わたしたちは、力を合わせて、女性の権利を守り、社会的・経済的地位の向上を図ります。
一．わたしたちは、女性の声をＪＡ運動に反映するために、参加・参画を進め、ＪＡ運動を実践します。
一．わたしたちは、女性の協同活動によって、ゆとりとふれあい・たすけあいのある、住みよい地域社会づくりを行います。

ＪＡ女性組織５原則

わたしたちは、健全な食と農を次代に引き継ぐため、ＪＡに結集して活動する、次の運営原則と性格をそなえた組織です。

１．自主的に運営する組織です。
ＪＡ運動を自らのものと自覚し推進するため、ＪＡ運営への積極的参加を進め、女性の総意にもとづいて自主的に運営します。

２．こころざしを同じくする女性の組織です。
綱領と原則を十分理解し、住みよい地域づくりを行おうとする女性の集まりです。

３．仲間を増やし、年代・目的・ニーズに応じた活動を行う組織です。
生活に根ざした感性と能力を活かし、学習と実践のもと、より多くの仲間と共に、それぞれの年代や目的・ニーズに応じた活動を行います。

４．社会に貢献する活動を行う組織です。
環境問題や高齢者福祉問題など社会に貢献する活動を行います。

５．政治的に中立の組織です。
組織としては一党一派に属さず、政治的には中立の立場をとりますが、個人の思想信条は自由です。しかし、組織としては政治に無関心ではなく、女性の要求にもとづく農政・政治活動は積極的に行います。

カンタン

本報告書の活用方法

①「チェックシート（30ページ）」で女性組織の現状分析をしましょう。
②気になるチェック項目の「対応する方向」の番号に沿って、「具体例リスト（32ページ）」のポイントを参照し、具体例の詳細（一部ＪＡを除く）をウェブサイト「教育文化活動ＪＡ実践事例データベース」で確認しましょう。

URL　https://www.ja-jirei-ienohikari.com/
PASSWORD　jireija

目 次

はじめに …… 2

Ⅰ 課題提起――ＪＡ女性組織の現状と課題 …… 3

❶ メンバー数の減少と高齢化 …… 3
❷ 「組織」の弱体化と組織構造変化 …… 4
❸ 工夫が必要な新たな「仲間づくり」 …… 6
❹ ＪＡとの関係の希薄化 …… 7
❺ ＪＡにおける事務局体制の弱まり …… 8

Ⅱ ＪＡ女性組織の歴史とその存在価値――新たな女性組織への着眼点 …… 10

❶ ＪＡ女性組織の歴史と「結集軸」の変化 …… 10
❷ ＪＡ女性組織の３つの存在価値 …… 13
❸ どのような人に仲間になってもらうのか …… 16

Ⅲ 女性組織の「仲間づくり」と活性化をどうすすめるか …… 18

❶ テーマ軸のグループ活動を強化する …… 19
❷ メンバーの拡大と活動の充実・リーダーの育成に取り組む …… 21
❸ 「ＪＡの女性組織」であることを重視する …… 22
❹ 支店エリアの活動を重視する …… 24
❺ 家の光事業を活用して女性組織の存在価値を高める …… 25

Ⅳ 仲間づくりと組織の活性化に着手するために …… 28

❶ 女性組織の自己点検 …… 28
別表Ａ 女性組織の現状分析チェックシート …… 30
別表Ｂ 仲間づくりと活性化をすすめる５つの方向　具体例リスト …… 32
❷ 実践！　女性組織の仲間づくり …… 42

Ⅴ 女性組織の仲間づくりを支援する家の光事業 …… 45

❶ 記事活用の促進とセミナー・研修会の開催 …… 45
❷ 全世代型食農教育活動の支援 …… 46
❸ 組織基盤強化支援――「ＪＡサテライト プラス」の展開 …… 46

おわりに …… 48

はじめに

ＪＡ女性組織綱領･五原則にも謳われているとおり、ＪＡ女性組織は女性の権利を守り、社会的･経済的地位の向上を図ることを目的にＪＡ運動を実践し、女性の声をＪＡ運動に反映させ、協同活動をとおした住みよい地域社会づくりをめざして、地域でさまざまな活動に取り組んできました。

その活動は、ＪＡに結集する女性の自主的な活動として、さらに地域社会に有意義な活動として社会的に高く評価されてきました。

しかし、ＪＡ女性組織メンバーの高齢化もすすみ、メンバー数は減少傾向が続いています。その傾向に拍車をかけたのはコロナウィルス感染拡大です。活動が自粛となり“活動をしなくても問題ないなら”と、支部が丸ごと解散する組織もありました。また、“女性部の役員になりたくない”と以前からある根強い事由で女性組織を脱退する方も少なくありません。このままでは女性組織がさらに衰退し、いずれは消滅してしまうのではないかとの危機感もあります。

さらに、西日本を中心に一県一ＪＡが成立し、ＪＡの規模はとても大型化しています。支店のエリア･規模も大きくなり、ＪＡ女性組織メンバーからは“支店までの交通手段が困難になった”との声もあり、活動に参加しにくい現状もあります。ＪＡの姿も昔に比べてずいぶん変化していますが、女性組織をめぐる環境も大きく変化しています。

こうしたＪＡ女性組織が抱える環境と問題を直視し、同時に、新たな状況のもとで生まれている新しいテーマや活動のかたち、状況変化を踏まえた女性組織の改革などに焦点を当てながら、今後の女性組織のあり方を示すことが求められています。

そこで家の光協会は、令和６年度、滋賀県立大学名誉教授　増田佳昭先生をコーディネーターに、６ＪＡの女性組織担当部課長、ＪＡ全中、本会常勤役員を委員に、ＪＡ全国女性組織協議会理事をオブザーバーに迎え「ＪＡ女性組織仲間づくり検討委員会」を設置しました。

この委員会では、ＪＡ女性組織がこれからも、地域を元気にする「なくてはならない組織」であり続けるために、①“やりたい事を、やりたい人と、やりたい時に”活動できる自主的グループづくり、②これまでのピラミッド型組織形態からテーマ別グループ活動など“フラットな組織運営形態”へのシフト、③今日的なコミュニケーションツールであるＳＮＳの活用など、さまざまな取り組みによる「仲間づくり」の方策について、研究･協議をすすめてきました。令和５年度に設置した「ＪＡファンづくり検討委員会」においてとりまとめた「教育文化活動における対象者や意義の明確化の重要性」を踏まえた議論をすすめるため、増田先生には引き続きコーディネーターをお務めいただきました。

また、組織形態の異なる３ＪＡにおいて現地ヒアリング調査にご協力を賜り、活動の実施内容や運営体制について示唆に富む貴重なご意見をいただきました。

本報告書は、Ⅰ･Ⅱ章において「現状と課題、存在価値の再認識、新たな着眼点」について触れ、Ⅲ･Ⅳ･Ⅴ章では「仲間づくりと組織活性化への具体的方策」を提示する構成になっております。とくにⅣ章は、「チェックシート」と「具体例リスト」により、自己点検から実践事例をたどり情報収集と対応する方向を確認できます。ＪＡ女性組織の仲間づくりをすすめるＪＡ役職員の皆様の一助になれば幸いです。

最後に、ご多忙のなか本委員会にご出席くださり、熱心にご協議いただきましたコーディネーターと委員･オブザーバーの皆様、ならびに現地ヒアリング調査および実践事例の提供にご協力いただきました全国のＪＡ･ＪＡ女性組織メンバーの皆様に、心より厚くお礼申しあげます。

一般社団法人　家の光協会

Ⅰ 課題提起――
ＪＡ女性組織の現状と課題

1 メンバー数の減少と高齢化

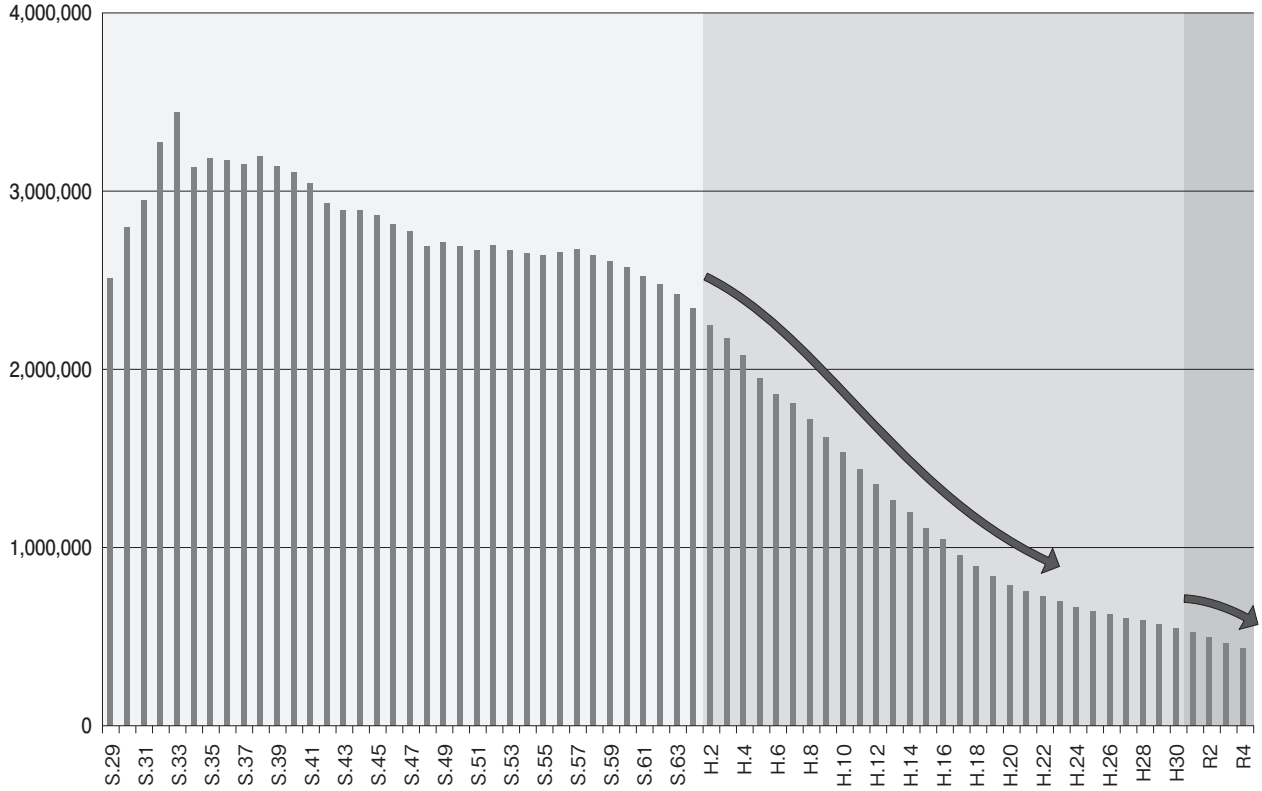
（1）支部解散による登録メンバーの減少

ＪＡ女性組織のメンバー数は昭和33年のピーク時には344万人を数えましたが、平成の時代に急減して100万人を割り込みました。その後令和になっても減少は引き続き、令和4年には42万5千人にまで減ってしまいました。（**図1**）

メンバー数の減少は、支部の解散や活動休止によるものが中心で、いわば地区別の組織がまるごと離脱するかたちですすんでいます。支部解散の主な理由は役員選出が困難であることとされることが多いのですが、組織目的のあいまい化や活動内容のマンネリ化、魅力不足もその背景にあります。

ただ、女性組織が実際に取り組んでいるテーマ（目的）別活動や小グループ活動に魅力を感じて組織加入を続けたいメンバーもいるので、支部が解散すると所属先のなくなるメンバーが生まれることになります。そのために、「個人会員」や「支部に所属しない会員」方式を採用するＪＡも増えています。

「個人会員」や「支部に所属しない会員」は、仲間の減少を食い止め、仲間を増やす参加し



資料：ＪＡ全中・ＪＡ全国女性組織協議会「ＪＡ女性組織の現状と課題　参考資料」（令和6年2月）

図1　ＪＡ女性組織メンバー数の推移

やすい制度として評価される一方で、「いいとこ取り」にならないかという懸念や帰属意識の低下への危惧も示されています。

このように、メンバー数の減少はＪＡ女性組織にとって深刻な問題ですが、一方でテーマ別の小グループ活動は多くのＪＡで活発に取り組まれています。数の減少だけに目を奪われず、活動内容や組織形態の変化に着目して、その活性化や質的な充実に努めることが大事です。

(2)「メンバーの高齢化」をどうみるか

メンバーの高齢化もすすんでいます。令和5年では、メンバーのうち70代以上が57％と過半を占めています。逆に50代以下は16.4％に過ぎません(**表1**)。30年前の平成7年には40代以下が40％を占めており、たしかにメンバーの高齢化は急速です。

ＪＡとしても、フレッシュミズ組織を立ち上げるなど、次の世代の女性の加入促進に取り組んできたのですが、必ずしも狙い通りに若い世代の取り込みに成功しているとはいえません。その意味では、ＪＡ女性組織として、どんな年齢のどんな人たちに、どんな活動に参加してもらうのか、もう少しターゲットを明確にした方が良いのではないでしょうか。

子育て世代を中心に若い世代は仕事と育児に多忙ですし、40～50代は現役で仕事をしている方がほとんどです。人生100年時代を考えると、70代以降の人たちに地域での自主的な活動の機会を提供して、くらしの向上と地域づくりに活躍してもらうことが、ＪＡ運動としてはむしろ現実的で必要なことではないでしょうか。60代はそのための準備期間と考えてもいいくらいです。さらにその下の50代以下の世代は、幅広くＪＡとＪＡ女性組織を知ってもらうための期間と位置づけることもできるでしょう。

「高齢化」を嘆くよりも、「元気高齢者」をどう受け入れるか、どう元気に活動してもらうかを考えてみることが必要です。

2 「組織」の弱体化と組織構造変化

(1)ピラミッド型組織は弱体化している

女性組織が弱体化しているといわれることの中身には、メンバー数の減少とともに組織構造の変化があります。

ＪＡ女性組織の組織構造はＪＡごとにさまざまですが、多くのＪＡで、本店段階に女性組織本部、支店段階に支部、集落段階に班というピラミッド型の組織形態をとっています。そして、役員選出は下部組織から順次選出し、支部役員の中から本部役員を選ぶ方式が多いとみられます(**図2**)。

表1　女性組織メンバーの年齢構成(活動実態調査の推計値)

単位：％

調査年度	30代以下	40代	50代	60代	70代	80代	計
平成元（1989）年度	19.2	27.2	33.5	20.1			100
平成７（1995）年度	16.6	23.5	30.7	29.2			100
平成 13（2001）年度	7.6	17.8	31.9	42.7			100
平成 18（2006）年度	9.6	14.2	28.2	48.0			100
平成 27（2015）年度	2.6	7.2	17.2	35.1	36.6		98.7
令和５（2023）年度	1.6	5.1	9.7	26.5	57.1		100.0

資料:図１に同じ

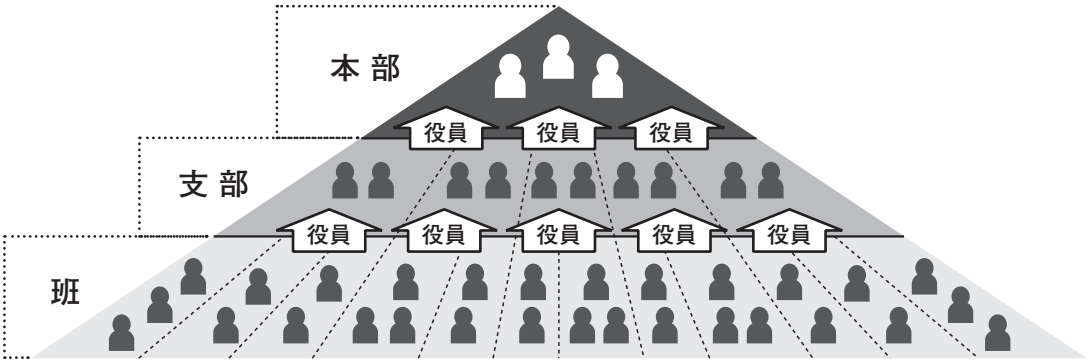


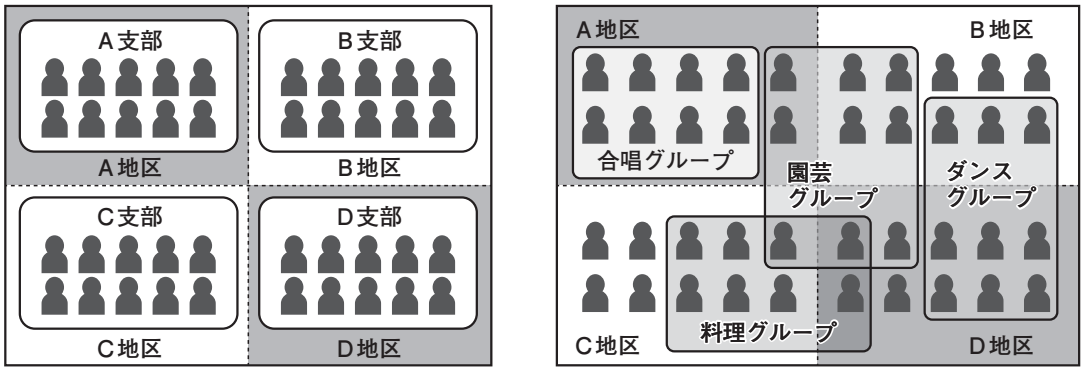
図２　ピラミッド型の組織形態

このような組織構造が持つ問題の一つは、（役員選出が重層的になっているために）支部役員になると本部役員に選出されるかもしれないという懸念から、支部役員への就任を避ける、また役員選出の困難を理由に支部解散が生じるなど、女性組織の弱体化の原因になっています。もう一つは、「支部活動」「本部活動」が、自主的で任意な活動でなく義務的な活動とされることで、役員の負担感につながっている可能性もあります。

（２）テーマ別グループ活動への重心移行による組織観の「ずれ」

女性組織の活動形態は、地区や年齢で結集するというよりも、テーマを軸にさまざまなグループが活動するテーマ別グループ活動が中心になっています。活動のしかたでみれば、支部活動が地区を単位にメンバー全員が参加する「地域ベース型」だったとすれば、テーマ別グループ活動は、同好の仲間が集まる「同好会型」といえます（**図３**）。「地域ベース型」と「同好会型」をうまく組み合わせながら、女性組織メンバーのニーズに応え、女性組織への社会的期待に応えることが必要です。そのために活動の領域や内容についても、整理が必要になっています。

活動方式の分化は、メンバーの組織観の違いにもつながってきます。一般のメンバーは「同好会型」のグループ活動こそが女性組織活動だと受け止めているのに対し、役員は支部



地域ベース型
支部を単位にメンバー全員が参加する

同好会型
地域を越えて同好の仲間が集まる

図３　「地域ベース型」と「同好会型」イメージ

主催の「地域ベース型」を典型的な女性組織活動として認識している傾向があります。一般メンバーと役員層との間の組織観がずれてきていることにも留意する必要があります。

（3）柔軟で持続的な女性組織構造へ

ＪＡ女性組織のこれからの組織構造のあり方について、最大の問題は旧来のピラミッド型組織とテーマ別グループとの関係をどう位置づけるかです（**図４**）。

テーマ別グループは、メンバーのニーズと自主性に基づいて活動しているので、組織を運営していく上でのメンバーの負担感はそれほどありません。反面、ＪＡ女性組織が本来持つべき社会的な問題意識や目標が自覚されない傾向があります。また、地域（支部）を越えてグループをつくり、活動できるので、ＪＡの支店との関係が薄まる傾向があります。

今後は、旧来のピラミッド型組織の良さを活かしながらも、メンバーのニーズと自主性に基づいたテーマ別グループを軸にする方向が基本になるでしょう。本部組織の協議会化や、グループ活動と支店活動との連携に取り組むＪＡもあり、柔軟で持続的な女性組織の姿が模索されています。

3 工夫が必要な新たな「仲間づくり」

（1）開放的なグループ運営

テーマ別グループ活動は多くのＪＡで一般化し女性組織の活動を活性化させてきましたが、まだまだＪＡ女性組織メンバーが目にみえて増えている状況にはありません。

その理由はいくつか考えられますが、その一つがグループ活動の持つ「閉鎖性」です。活動内容にもよりますが、メンバーが固定してメンバー内の親密性が活動継続の重要な原動力になっていることがあります。そのため、メンバーをそれ以上に拡大することに消極的な場合が少なくありません。また、メンバーが新たな参加者の増加を期待していても、外部からなかなか入りにくいと感じられることもあります。今いるメンバーの声を尊重しながらも、より開放的なグループ運営をめざすことが大事でしょう。

（2）新グループの立ち上げ

多くのＪＡで、新たなグループを立ち上げて女性組織の仲間を増やす必要性は認識されているのですが、必ずしもうまくいっていませ

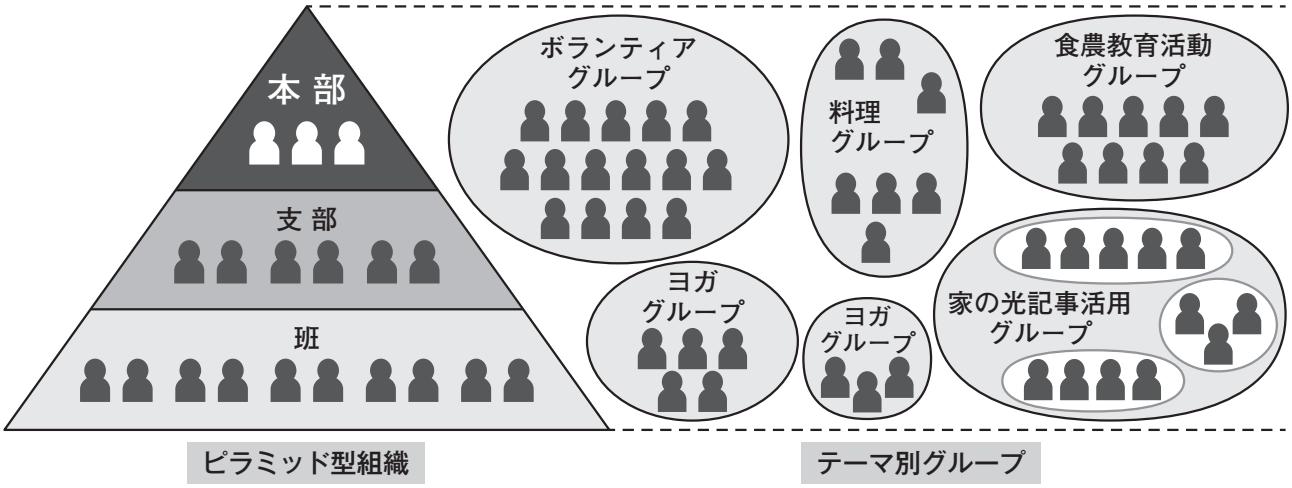


図４　ピラミッド型組織とテーマ別グループの組み合わせイメージ

ん。新グループを立ち上げ、それをスムーズに運営するためにはＪＡ職員の力が必要ですが、ＪＡのサポート体制の弱まりもあって、なかなか成果が上がらない状況にあります。また、無理をしてまでグループ活動を増やすことに意義があるのか、といった活動活性化への消極的な姿勢や疑問も、ＪＡ役職員にないわけではありません。

グループ活動立ち上げの手法やパターンをできるだけ具体的に示すと同時に、女性組織の仲間づくりの必要性について、ＪＡ役職員、そしてＪＡ女性組織メンバーが共通の認識を持つことが必要とされています。

たとえばヨガを始めてみたいメンバーがいれば、既存のヨガグループに新たに加わる場合も、新たなグループを新たなメンバーで立ち上げる場合もあるでしょう。グループの人数も、5～10名程度で身近な仲間で活動しやすい範囲から始める場合や、支部を越えたグループとして集まる場合などが考えられます。メンバーや設備の状況、持続可能性などを考慮し、適切な手法やパターンを選択しましょう。

（3）「入口」としての生活文化教室、講座

ＪＡと女性組織を知ってもらい、活動への参加から組織加入へと誘うための「ハードルの低い」入口として、各種の生活文化教室や講座が開催されています。具体的には、料理やスイーツづくりの教室、健康づくり教室、スマホ教室などです。それらは、継続的なグループ活動に直接つながるものではありませんが、参加者とＪＡ、参加者同士が顔見知りになり、親密な関係ができれば、新たなグループづくりにつながります。いくつかのＪＡでは、フレッシュミズ組織をこうした教室や講座に変えて、ＪＡ女性組織の入口と位置づける例もあります。ハードルの低い、間口の広い入口を用意することが必要でしょう。

（4）クーポンの提供など実利志向も

女性組織メンバーを増やしているＪＡの中には、メンバーになると地域の飲食店で割引が受けられる会員証を発行して、幅広くメンバーを集めている事例もあります。ＪＡとＪＡ女性組織の認知を拡げ、できるだけ多くの女性に関わってもらうという意味で、これもまたハードルの低い、間口の広い入口として考えることができます。

4 ＪＡとの関係の希薄化

（1）非組合員の相対的な増加

全中の調査（令和5年度全ＪＡ調査）によれば、女性組織メンバーのうちＪＡの正組合員資格を持つものは27.5％、同じく准組合員は22.6％でした（**表２**）。メンバーのうちＪＡ組合員はほぼ半数にとどまっています。平成7年に改定されたＪＡ女性組織綱領は「ＪＡ運動を実践する」「女性の声をＪＡ運動に反映させる」として、ＪＡ女性組織をＪＡの組合員組織として位置づけていますが、ＪＡへの加入という面では、そうなっていません。

非組合員メンバーには、組合員世帯の家族も含まれているとみられますが、ＪＡ組合員の加入促進に取り組むＪＡが多い今日、女性組織メンバーにも積極的に組合員加入を呼びかけることが重要です。

（2）ＪＡとの組織的、事業的関係が不明確に

女性組織とＪＡとの関係については、女性組織綱領が前記のような位置づけをしたものの、必ずしも明確になっているわけではありません。かつては、生活物資の共同購入などで

表２　女性組織メンバーに占める組合員の割合（令和５年度）

	全JA調査結果 全JAが回答				女性組織メンバー意向調査 女性組織の中心メンバー※			
	人数		割合（%）		人数		割合（%）	
女性組織メンバー数	a	416,952			a	1,501		
うち正組合員	b	114,501	b/a	27.5	b	767	b/a	51,1
うち准組合員	c	94,356	c/a	22.6	c	402	c/a	26,8

資料：図１に同じ　　※回答者の75％が女性組織役員経験者

ＪＡの購買部門との関係もあったのですが、現在ではそうした関係も薄れ、メンバーのＪＡとのつながり意識や帰属意識は弱まっているとみざるをえません。

他方で、多くのＪＡは毎年一定額の助成金を女性組織に対して支出し、生活相談員（指導員）などの職員を配置し、ＪＡの施設をその活動に提供しています。ＪＡからみれば、ＪＡ女性組織の役員などがＪＡに背を向けたら大変だという危機感がありますから、事業推進への協力を依頼することもなく、現状の関係を維持しているのが実情でしょう。ただ、これまでの状況を慣習的に継続するのでなく、女性組織とＪＡとの間の関係については、筋道を立てて現実的に整理しておくことが必要となっています。

（３）家の光事業との連携

家の光協会が出版する家庭雑誌『家の光』の購読部数も女性組織のメンバー数とともに減少しています。『家の光』は令和７年５月号で創刊100周年を迎えましたが、これまで、ＪＡ女性組織の活動とともに歩んできた雑誌です。また、全国家の光大会や各種研修会、家の光文化賞ＪＡトップフォーラムなどは、多くのＪＡ役職員や組合員の参加のもと、教育文化活動と女性組織活動の活性化をめざして、毎年継続して開催されています。

あらためて、ＪＡにおける女性組織活動の教材として『家の光』を位置づけるとともに、女性組織の仲間づくりを支援する家の光事業のさらなる充実が求められています。

5　ＪＡにおける事務局体制の弱まり

（１）ＪＡ職員数の減少と生活相談員体制の弱まり

この20年間ほどの間に、ＪＡの職員数はおよそ25万人から17万人へと大きく減少しました（**表３**）。それに比例して、女性組織事務局を担当している生活相談員などの人数も減ってきました。また、支店統廃合によって、職員の配置も変化してきています。専任職員から兼務職員へ、さらには嘱託職員への依存傾向もあります。

そのために、女性組織の本部、支部への手厚いサポートが困難になって、生活文化教室や小グループ活動の休止、グループの立ち上げがすすまないなど、活動が停滞する傾向もみられます。

事務局体制が弱まる状況のもとでは、従来の方式を見直し、できるだけ職員の負担を少なくしながら女性組織の自立的な活性化を図ることが求められています。

表３　ＪＡ職員数の推移

調査年度	職員数
平成 15（2003）年	248,015
平成 25（2013）年	209,478
令和５（2023）年	166,761

資料：農林水産省「総合農協統計表」

（２）ＪＡの大型化と支店の広域化

県一ＪＡをはじめ、各地でＪＡの大型化と支店の広域化がすすんでいます。そのため、本店だけでは女性組織への対応が困難になり、支店でどのように対応するかが重要になっています。ＪＡでは、支店運営委員会やふれあい委員会など、支店を単位にした活動や運営を充実させようとしています。ＪＡの組織・活動拠点の変化を踏まえながら、女性組織自体の組織構造とＪＡによるサポート体制を検討していく必要があります。

店舗機能の見直しや統廃合にともない、すでに多くの施設の再編がすすめられているなかで、ＪＡの支店は組合員の集う拠点としての役割がきわめて重要になっています。女性組織の活動実態と施設ニーズをよく受け止めて、女性組織をはじめ組合員が活用できる施設としての整備が期待されています。

Ⅱ ＪＡ女性組織の歴史とその存在価値
――新たな女性組織への着眼点

1 ＪＡ女性組織の歴史と「結集軸」の変化

（1）ＪＡ女性組織の歴史をふり返る

①戦時中に原型ができた「全員参加」、「総ぐるみ」の地域婦人会

日本における女性組織の歴史は戦前にさかのぼります。明治時代の中頃からキリスト教系の婦人会や佛教会系婦人会が結成され、明治34年には「銃後支援」を掲げる愛国婦人会が結成されています。

昭和に入ると、全国組織として愛国婦人会、文部省の後押しを受けた大日本連合婦人会、陸軍の後押しを受けた大日本国防婦人会の三つの有力な組織が存在しました。これらはいずれも半官製組織でした。

昭和17年には、すべての婦人会が大日本婦人会に統合、一元化されました。戦時下で女性を総ぐるみで組織する団体が成立したのです。

敗戦後、ほとんどの地域で、戦争中に整備された婦人会組織が地域婦人会として継続しました。

②ＪＡ女性組織の成立、地域婦人会との二枚看板も

昭和22年、農協法が制定されて農協が発足しました。農協は婦人組織を生活物資の購買事業の受け皿と位置づけて、地域婦人会の中の農家婦人をメンバーにして農協婦人部を組織しました。そのため、農村地域では地域婦人会と農協婦人部とはほぼ同一メンバーの場合が多く、実質的に同一の組織が二枚の看板を掛けている状況が長く続きました。

こうした状況への批判もあって、昭和30年には、農協運動を推進、実践する自主的組織として地域婦人会からの分離と純化をめざす動きがあり、「農協婦人部5原則」が定められて、「耕作農民婦人の職能組織」、農協の「協力組織」、「事業協力組織」と位置づけられました。

③薄まったＪＡ女性組織の職能的性格

その後、昭和45年には、第12回全国農協大会で生活基本構想が決議され、生活面事業や活動の拡大が志向されます。農協婦人部については、生活部門の活動や事業の担い手と位置づけられて、集落単位の「生活班」を設置してそれを農協婦人部の基礎組織とする方向がうち出されました。

平成7年には、農業者女性の減少を背景に女性組織綱領、5原則の改定が行われました。そこでは、「働く農民婦人」の規定を消去し、職能的性格が薄められました。また自主的な組織であることを強調しつつもＪＡの組合員組織としての位置づけをより明確にしました。

（2）女性組織の「結集軸」の変化と多様化

①「地域軸」――地域ベース型・ピラミッド型組織

農協の女性組織は戦後になって地域婦人会の農家婦人版として発足しました。そのため、集落段階での農家女性の全員参加を基本に、旧村レベルの「支部」、農協本店レベルでの

「本部」という、地域をベースにしたピラミッド型組織として形づくられました。

集落段階で行われる生活物資の購入は、農協婦人組織の基本的な活動でしたが、それ以外にも、農村女性のくらしに関わる問題の受け皿的な組織として、生活改善や地域の活動に幅広く関わってきました。

ただ、地域ベース型はメンバーのニーズに対応した柔軟な運営が難しいことや、班や支部からの役員選出が義務づけられることなどもあって、だんだんと画一的な運営が難しくなっていきます。

②「世代軸」――フレッシュミズ、ミドルなど世代別組織

地域ベース型の女性組織は年齢やニーズにかかわらず集落内、地区内のすべての女性が構成員となるため、姑も嫁も同じ組織に入りますが、それぞれの組織への期待が異なることや、嫁が女性組織活動に参加しにくいという現実もありました。

そうした状況で、農家の「嫁」世代を組織しようと試みられたのが「若妻部会」です。これは、いわば女性組織に世代別の組織軸を持ち込んだものといえます。これが現在のフレッシュミズ組織につながります。若妻部会は、農家の嫁の立場から自分たちのニーズに沿って活動を行い、女性組織の活性化に大きな役割を果たしました。

しかし、世代別組織は必然的にメンバーの新陳代謝を求められるため、フレッシュミズ組織は持続性や安定性に課題があり、その運営に苦労することになります。

③「テーマ軸」――各種グループ活動組織

今日では、女性の社会進出がすすみ生活スタイルは多様化しています。

農村女性という同質性が薄まり、女性組織の結集軸は、メンバーのニーズに基づく活動テーマに求めざるをえなくなります。テーマに基づいて希望する者が集まる、前述の「同好会型」の組織です。各地のＪＡでも「星の数ほどグループをつくろう」を掲げるなど、グループ活動を重視するＪＡが生まれてきます。

また、地域ベース型組織が一種の「容れ物」としての「運営を重視する組織」であるのに対して、テーマ別グループはまさしく「活動のための組織」であるという違いもあります。ピラミッド型組織を維持するためには段階別の組織運営体制（役員体制）が必要ですが、テーマ別グループでは自分たちの活動に関連するマネジメントのみをすればよいというメリットがあります。

ただ、そのために、既存の本部や支部の役員からは「（同好会型の）サークルメンバーは組織運営の義務を免れて“いいとこ取り”しているのではないか」などとみられることもあります。

（３）新たな女性組織への着眼点

以上みてきたように、現在の女性組織は「地域軸」「世代軸」「テーマ軸」という三つの結集軸が併存しています（**図５**）。ＪＡによって重点の置き方は異なるのですが、これからの女性組織の仲間づくりをすすめる上での着眼点を３点あげます。

①地域ベース型・ピラミッド型組織の意義と限界

伝統的な地域軸に基づく地域ベース型・ピラミッド型組織は、「すべての」女性が参加するという意味で、理想的な姿にもみえます。とくに、女性組織としての「形式」を重視する場合は重要なことでしょう。

本部役員会や支部役員会は、女性組織としての対外的な代表機能を果たし、対内的には

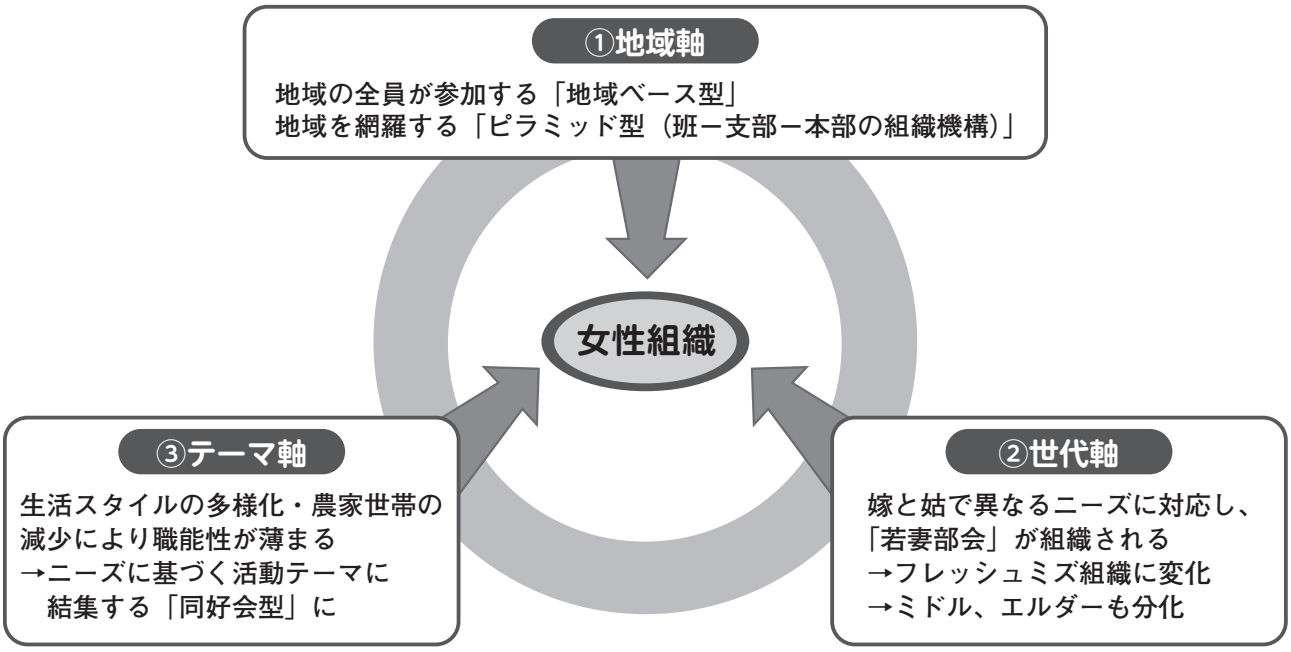


図５　女性組織の３つの結集軸

女性組織の方向付けや調整を行うのですが、前者の対外的活動は行政や上部組織への対応もあって比較的活発な反面、対内的な指導や調整の機能は次第に弱まっているように見受けられます。とくに支部の解散などによって、ピラミッド型組織が空洞化している例も少なからずあり、またグループ活動が中心になると統一的な方針を立てても必ずしも浸透しないという事情もありそうです。

ＪＡによって本部、支部役員会の位置づけや活動は異なっています。したがって、それぞれのＪＡの実態を踏まえた方向付けが必要です。しかし確認しておかなければならないことは、女性の生活スタイルとニーズの変化で「地域ベース型」の一律の維持は困難になること、そして「ピラミッド型」も支部の解散などによって底辺が欠けていく傾向があることです。総じていえば「空洞化」の傾向がすすむ可能性が大きいことです。

空洞化を防ぐためには、やはり参加の入口となるようなサークルなどの「活動」を充実させるしかありません。支部や本部のもとにどれだけグループをつくって活動の活性化ができるかが、まずは重要でしょう。また、支部や本部の活動テーマを明確にして、役員会を中心にした活動を活性化することも方策の一つです。

②ＪＡ女性組織は目的別組織の複合体

しかし、ピラミッド型組織の最大の問題は、役員の負担です。それを危惧して支部の解散にいたる例が少なくないのですから、その解決や軽減は避けて通れない課題です。

上記のような支部、本部管轄のグループ活動の活性化も考えられますが、ピラミッド型組織を絶対視するのをやめて、ＪＡ女性組織をさまざまなグループの集合体、あるいは複合体ととらえてその運営方法を見直すこともできるのではないでしょうか。

支部活動も本部活動も、その内実は、役員会としての活動と支部または本部所管のグループ活動から成り立っていることが多いよう

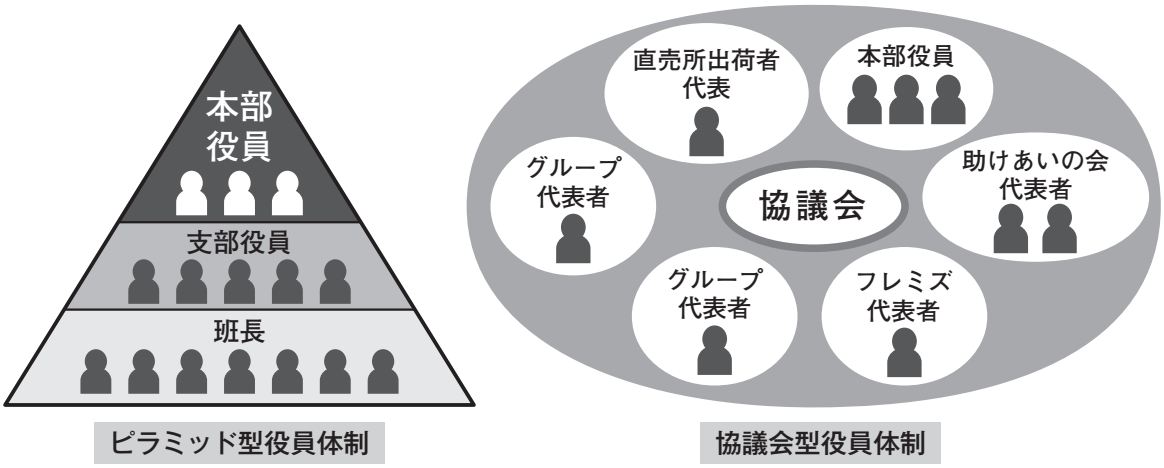


図６　女性組織の役員体制イメージ

です。こうした状況は、支部役員会や本部役員会も含めて、ＪＡ女性組織を多種の目的別組織の複合体とみることもできるのです。

このようにみた場合、ＪＡ女性組織の役員体制や運営方式も変わってきます。女性組織の本部段階は、各種活動組織の協議会のようになるでしょうし、実際にグループ活動に参加する代表者などが本部協議会に選出されるので、従来の役員の負担感は軽減されると思われます（**図６**）。

図中の「グループ代表者」は、たとえば同じテーマの活動グループの中から代表者を選出したり、支店などの地域別に活動グループの代表者を選出したりすることが考えられます。

③支店段階の目的別グループの再結集を

しかし、そのような目的別グループの複合体としての運営体制にした場合、グループとＪＡや地域社会との関係が薄まってしまうのではないかとの懸念があります。その点については女性組織の「価値」に関連してのちほど述べますが、重要なことは、支店段階を中心に、ＪＡと女性組織のグループとのつながりの場、結節点をしっかりと持つことです。

テーマ別の自主的な活動とはいっても、“ＪＡの女性組織の活動”であることは間違いありません。ＪＡ女性組織はＪＡ運動の目標に沿った活動を実践し、ひいてはそれが地域社会のくらしの向上に貢献することが期待されています。

現在、多くのＪＡで支店運営委員会や支店活動などが取り組まれています。支店エリアで活動する女性組織の活動サークルも、支店単位で集まりの場を持つなどして、ＪＡ運動との連携、地域社会との連携を意識し、実践する場をつくることが重要でしょう。支店運営委員会との連携などで、活動の幅を拡げ、さらに社会的な意義を持つことがグループ活動組織にとっても良い効果を生むでしょう。

２　ＪＡ女性組織の３つの存在価値

（１）メンバーにとっての存在価値

①ニーズに応える魅力的な活動テーマ

女性組織が成立するもっとも基本的な要件は、メンバーにとって“魅力的”で“必要”な組織であることです。協同組合原則が示すように、協同組合の基本的な目的は、メンバーのニーズや願いを満たすところにあります。ＪＡ

女性組織の活動も、その多くはくらしの改善や生活の充実をめざすものですが、世代や生活スタイルによって、それぞれが魅力的と感じる活動の分野やテーマは異なっています。それぞれの人々に、受け入れられる魅力的なテーマ設定と活動スタイルはきわめて重要です。

テーマについても、「子育て」や「介護」といった世代性を持つテーマもあれば、「趣味」「娯楽」「親睦」などのテーマもあります。さらに、「食と農」や「健康」に関わるもの、「家計」や「資産」など経済的なテーマ、「防災」や「環境」などの地域性や社会性を持ったテーマなどが存在します。

とくに高齢者の増加と健康や介護問題への社会的な関心はきわめて高く、地震や洪水など災害は大きな関心事です。大テーマも小テーマも、また大グループも小グループも多様なかたちでの活動が求められています。

②重要な仲間づくりと社会的な承認

「仲間づくり」はそれ自体が活動の重要な要素です。さらに、他の人のために役立ちたいというのも、多くの女性組織の活動のモチーフ（動機）になっています。

有名なマズローの5段階欲求は、生命維持に必要な欲求からより高次のものに向けて、「生理的欲求」、「安全欲求」、「社会的欲求」、「承認欲求」、「自己実現欲求」とピラミッド型に人間の欲求を整理し、序列化しています（**図7**）。3段階目の「社会的欲求」は、仲間を得たい、家族や友人に受け入れられたいという欲求です。4段階目の「承認欲求」は他者から認められたいと願う欲求です。さらに、5段階目の「自己実現欲求」は、自分が得意とする専門分野での成功など、自分が理想とする自分になりたいという欲求といわれます。

女性組織の活動も、ニーズに応えるテーマ設定だけでなく、活動のなかでメンバー一人ひとりの出番をつくるなど、社会的欲求や承認欲求を意識しながら運営をすすめていく必要があります。

③メンバーの過重な負担を避ける

メンバー自身にとっての女性組織の存在価値は、活動参加の魅力とそれにともなう負担との相互関係によっても影響されます。つまり、役員が行うさまざまな役回りや、役員以外の人でも連絡・調整・準備などの役割を担うことが、組織参加の魅力よりも大きい負担と感じられてしまえば、魅力も帳消しになってしまうかもしれないということです。

活動形態については、時間帯や開催頻度などふだんのくらしになじむ参加しやすい運営

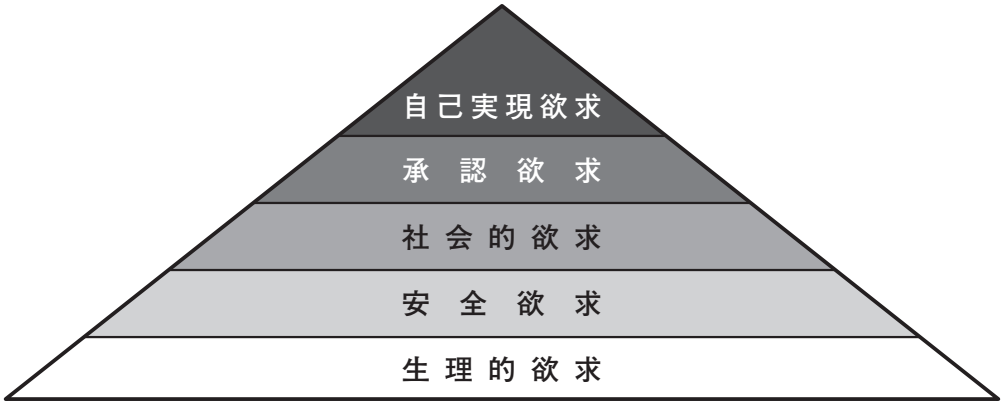


図7　マズローの5段階欲求

方式が重要です。

（２）ＪＡにとっての存在価値

①女性組織の活動はニーズ実現の協同組合運動

ＪＡと女性組織との関係について、まず押さえておかなければならないことは、女性組織の活動は、ＪＡに集う女性が自分たちのニーズや願いを実現するための協同の活動だということです。その意味で、ＪＡ女性組織の活動は「農業者の経済的社会的地位の向上」（農協法第1条）を図るという目的に沿ったものですし、事業的には農協法第10条の第13号事業、すなわち「農村の生活及び文化の改善に関する施設」にあたります。

だからこそ、ＪＡは女性組織に一定の活動助成を行い、生活相談員などのサポート人材を配置し、活動場所としてＪＡ施設の整備と提供を行っているのです。

事業と活動については、「事業」は経済的な活動で、「活動」は非経済的な活動と分ける場合がありますが、組合員が自らに必要なものを協同で実現するという点では、両者は共通します。女性組織の活動も、自らのニーズを実現するための協同組合運動であることをしっかりと確認することが大事です。

②ＪＡ運動として共通目標の確認を

ＪＡ女性組織の活動は、“ＪＡの組織”としての活動です。その意味で、ＪＡ女性組織もＪＡ運動の目的と無関係ではいられません。ＪＡ運動の理念を示したＪＡ綱領は、「地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう」ほか、安心して暮らせる豊かな地域社会の構築、参加と連帯による協同の成果の実現、民主的運営と健全経営、協同の理念の学びと実践などを定めています。

ＪＡ女性組織においても、ＪＡ綱領に沿った活動テーマの設定や運営方式が求められていると考えるべきでしょう。とくに、第1項目にある「食」と「農」はＪＡ運動の最重要の課題です。ＪＡ女性組織活動の重要な活動領域として位置づけておくことが必要です。

また、趣味や親睦も直接的にはメンバー自らのニーズを満たすものですが、その活動をつうじて仲間づくりや地域社会を元気にする効果を持ちます。

ＪＡ女性組織のメンバーは、家庭において家計上の重要な意思決定者です。ＪＡ運動についてしっかりと理解してもらうことは、ＪＡ運動全体にとって大変重要なことです。

③ＪＡ事業との関係をどう考えるか

ＪＡ女性組織も組合員組織なのだから、メンバーは信用事業や共済事業、購買事業などのＪＡ事業を利用すべきだという考えもありますが、そう単純ではありません。そもそもニーズが多様化している女性組織メンバーにいきなりＪＡ事業利用を押しつければ、大きな反発を買うことになるでしょう。

もちろん、ＪＡの女性組織ですから、ＪＡの側からすればＪＡ事業を利用してもらいたいのはやまやまです。しかし、メンバーは一定の目的やテーマを持って女性組織に集まっているのですから、それ以外の事業にはあまり関心がないとみるべきでしょう。機会をみながらＪＡ事業についての情報提供をしたり、事業担当者との接点を増やしたりといった工夫が必要です。また、資産管理など事業利用に関連する勉強会などは、ＪＡ事業を知ってもらう良い機会です。

それとともに、ＪＡ女性組織のメンバーに、農業協同組合の目的や仕組み、そしてＪＡ女性組織との関係について正しく知ってもらうことが必要です。各種の集まりの際に短時間の

「協同組合講座」の時間をとるなど、学習の機会を持つことが重要です。

（３）地域にとっての社会的な存在価値

①ＪＡ女性組織綱領、ＪＡ綱領、ＩＣＡ声明も地域社会への貢献と関与を期待

地域社会との関係は、ＪＡ女性組織綱領が「住みよい地域社会づくり」、女性組織5原則が「社会に貢献する活動」を掲げています。ＪＡ綱領も同様に「地域社会への貢献」をあげています。ＩＣＡ（国際協同組合同盟）の「協同組合のアイデンティティに関する声明」は第七原則として、地域社会への関与を宣言しています。協同組合運動の一翼を担うＪＡ女性組織として、さまざまなかたちで地域社会と関わることが求められています。

②地域社会における大事な女性組織として

ＮＰＯなど各種の非営利団体による地域社会での活動はある程度定着していますが、女性の組織的な運動はかつてに比べて停滞しているとみられます。その中で、女性のニーズをもとに自主的な活動を行う組織として、ＪＡ女性組織は特筆すべき存在になっているのではないでしょうか。協同組合としての性格を活かして、より地域社会に役立つ組織として存在感を持つ活動を行うことが期待されています。

地域社会のさまざまな問題を解決する第一歩は、人々が集まり、議論して、問題を認識することです。集まりの「場づくり」こそが大事なのです。人々の集まる場がどれだけあるかが、これからの地域社会の持続可能性を左右すると言ってもいいでしょう。地域に輝く女性の活動こそが求められています。

地域に女性の組織をつくり、活動に取り組むこと自体が価値あることなのです。

3 どのような人に仲間になってもらうのか

（１）ＪＡファンづくり検討委員会報告より

家の光協会では、令和6年7月にＪＡファンづくり検討委員会報告書として「ＪＡ新時代のファンづくり」をとりまとめました。そこでは、ＪＡファンづくりの実践のためのいくつかの観点を示していますが、重要な項目として「対象者のセグメントを明確にする」ことをあげています。

その中には、(1) 元気高齢者と多様な接点をつくる、(2) 子育て世代と接点をつくる、(3) 未来を担う農業者次世代との関係を強める、(4) 元農家と新しい形でつながる、(5) 地域に輝く女性とともに歩む、(6) 幅広い地域の人たちとの接点をつくる、(7) 将来のＪＡリーダーを育てる、の7つのテーマをあげています。

女性については5番目の項目で、自主的な小グループ活動とインフルエンサー的女性リーダーとの協力関係の必要性を指摘しています。

ただ、それ以外の項目にも女性が対象者として含まれています。世代や属性を意識して、グループ活動の参加と立ち上げを呼びかけることが大事です。

（２）対象を明確にした仲間づくり

①重要な「元気高齢者」

ＪＡ女性組織の仲間づくりでもっとも重要な

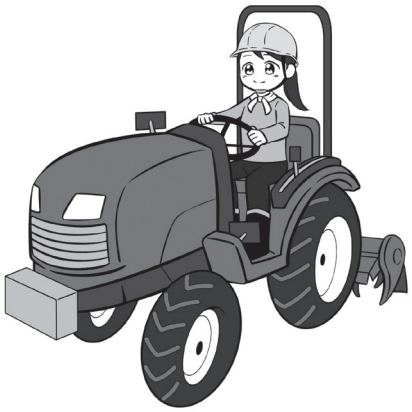
ターゲットは、やはり「元気高齢者」でしょう。人生100年時代で健康寿命も延びています。仕事もしながら充実した生活を送る「アクティブ・シニア」もいれば、介護などの支援が必要な「ケア・シニア」もいます。両者の中間の高齢者を「ギャップ・シニア」と呼んだりします。これら高齢者のくらしを充実させるために、生きがいづくりや健康維持、社会的なつながり確保は重要な課題ですし、協同組合としてのＪＡの女性組織が取り組めるテーマは「健康」、「介護・福祉」、「食と農」などたくさんあります。

②子育て世代に視野を広げて

世代的な意味でもう一つの重要なセグメントが「子育て世代」です。仕事と家庭で一番忙しい世代で、なかなか継続的な女性組織活動に参加しにくい状況にあると思われます。しかし、多忙な中でも料理やスイーツづくり、農業体験など、くらしの充実のテーマには多くの女性が関心を持っています。また、子どもの教育、さらには将来に備えてのくらしの保障や資産形成などの学びへのニーズが強いのもこの世代です。

先述のようにフレッシュミズの名称で料理教室を開始して、ＪＡ女性組織の入口と位置づけている例もあります。子育て世代を意識した教室とグループづくりは、ＪＡの次世代のファンをつくる上でも重要な課題です。

③女性農業者への働きかけも



現在、女性農業者の組織は生産部会の女性部などの形で存在しています。また、農業に従事する女性の数は減りましたが、農業者としてまた農家世帯の女性として特有の課題を抱えているとみられます。

女性農業者の現状をみつめながら、あらためてニーズに即したテーマ設定と組織づくりも考えてみる必要があるのではないでしょうか。

④大事な女性リーダーの育成

さらに、将来の女性組織リーダーおよびＪＡのリーダーづくりに意識的に取り組むことも必要です。各地のＪＡで取り組まれるようになってきた組合員大学などでも、受講生の一定割合は女性です。女性組織リーダーの研修の場を設けたり組合員大学を利用したりして、女性組織リーダーの学習の機会を設けることが重要です。

Ⅲ 女性組織の「仲間づくり」と活性化をどうすすめるか

これまで、ＪＡ女性組織が抱える問題状況と課題を以下の５つに整理しました（Ⅰ章参照）。

1．メンバー数の減少と高齢化（問われる組織のあり方）
2．「組織」の弱体化と組織構造変化（ピラミッド型組織の維持が困難）
3．工夫が必要な新たな「仲間づくり」（間口の広い入口やグループ活動の必要性）
4．ＪＡとの関係の希薄化（非組合員の増加、メンバーの減少と『家の光』部数の減少）
5．ＪＡにおける事務局体制の弱まり（職員数の減少とＪＡの大型化）

また、ＪＡ女性組織の仲間づくりと活性化をすすめるうえで重要と思われる視点について、３つの結集軸と着眼点、３つの存在価値、さらに仲間となる対象のセグメントを示しました（Ⅱ章参照）。

1．女性組織の３つの結集軸と着眼点
①地域軸（ピラミッド型）
②世代軸（フレッシュミズなど）
③テーマ軸（同好会型）

着眼点
①地域ベース型組織の意義と限界
②女性組織は目的別組織の複合体
③支店段階の目的別グループの再結成を

2．女性組織の３つの存在価値
①メンバーにとっての存在価値（ニーズに応える活動）
②ＪＡにとっての存在価値（ＪＡ運動の目的を達成する協同活動）
③地域にとっての存在価値（地域社会の課題を解決する活動）

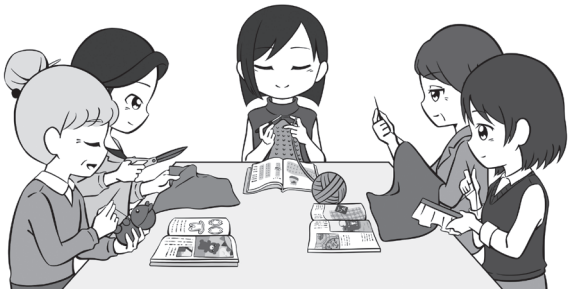
3．どのような人に仲間になってもらうのか
①元気高齢者（生きがいづくり、健康の維持、社会的なつながり確保）
②子育て世代（食農教育などニーズに対応、ＪＡファンづくりにも）
③農業者（女性農業者として特有の課題やニーズに対応）
④リーダー（持続可能な組織づくりに欠かせない）

これらを踏まえ、本章では、以下の「５つの方向」で「仲間づくり」と活性化をすすめることを提起します。

５つの方向
1．テーマ軸のグループ活動を強化する
2．メンバーの拡大と活動の充実・リーダーの育成に取り組む
3．「ＪＡの女性組織」であることを重視する
4．支店エリアの活動を重視する
5．家の光事業を活用して女性組織の存在価値を高める

1 テーマ軸のグループ活動を強化する

（1）テーマ（目的）別の自主的なグループ活動を育て、活性化させる



まずは近くにいる仲間が集まって、グループ活動の育成･活性化から始めましょう。「小さな協同」は大きな協同の成果につながる源泉です。

全国の女性組織はさまざまなグループ活動に取り組んでいますが、生活文化教室や講座を入口に結成する趣味のグループもあれば、生産･加工や食農教育、ボランティアなど社会的な活動に取り組むグループもあります。テーマを明確にして、自主的なグループ活動を促進しましょう。

Point

- テーマ別のグループ活動をＪＡ女性組織の活動手段の主軸にすえましょう
- 新しいグループ（5～10名目安）を増やしましょう
- 今あるグループのなかに新メンバーを迎え入れましょう
- 同じテーマでもグループをたくさんつくり、仲間を増やしましょう
- グループには年5回以上の活動を促しましょう
- グループ同士の交流や発表の場を設けて、女性組織全体への関心を高めましょう
- 支部段階で、無理なく集まれるメンバーから、グループづくりをすすめましょう
- 支部内のグループだけでなく、支部の領域を越えたメンバーで構成されるグループづくりをめざしましょう

（2）メンバーの期待に沿った、くらしに密着した魅力的なテーマを設定する

女性組織は、メンバーにとって魅力のある活動、ＪＡにとって有意義な活動、さらに地域にとって価値のある活動をするために、今日的なテーマを持ち、対象を明確にして活動を展開していきましょう。

Point

- 「ＪＡの女性組織」らしい主要活動テーマを設定しましょう（たとえば：「食と農」「健康」「防災」「ライフプラン」「環境」「娯楽」「親睦（旅行）」）
- 各世代に共通したテーマを毎年設けて、幅広いＪＡ女性組織活動を促進しましょう（たとえば：「食と農」「健康」「防災」など）
- それぞれの世代に向けた魅力的な活動テーマを設定しましょう（たとえば：子育て世代向けに「親子参加型のイベント」「美容」、50～70代向けには「健康」「相続」など）

（３）学びを重視して社会的な広がりを持つ

これまでのメンバーと新しいメンバーの満足度と帰属意識を高めるために、協同の学びや広く情報を増やす学びを取り入れて実践しましょう。

Point

- さまざまなテーマの活動をつうじて「学び」と「成長」を重視しましょう
- ＪＡ女性組織、ＪＡ、そして協同組合について積極的に学ぶ場を持ちましょう
- ＳＤＧｓへの取り組みなど、社会的な意義を意識した活動を重視しましょう
- 「楽しい」かつ「ためになる」要素を取り入れましょう
- 各種の学習をつうじて、ＪＡ女性組織の「リーダー育成」に意識的に取り組みましょう

（４）参加しやすい組織づくり

メンバーの過度な負担にならないよう、役員の役割や会合数を見直し、参加しやすい仕組みを工夫しましょう。また、ＬＩＮＥなどのＳＮＳを有効に活用しましょう。

Point

- ピラミッド型の画一的な組織構造にとらわれず、柔軟な運営に努めましょう
- 支部の解散などで所属先がなくなったメンバーのために、支部に属さない個人会員化など、柔軟な対応をとりましょう
- 会費制度や名簿管理の方法などを点検し必要な改善をしましょう
- 女性組織役員の役割や役員数を見直して役員の負担軽減に努めましょう
- 本部役員会をグループ活動の代表者などによる“協議会方式”にするなど、必要な改善を行いましょう
- 会員同士の連絡や行事の参加募集などにＳＮＳ（ＬＩＮＥなど）を有効活用しましょう

ま　と　め

★ＪＡ女性組織を活性化するためには、メンバーにとって魅力的でためになる目的別の組織や、メンバーが主体的に関われるグループ組織を立ち上げましょう。小グループをたくさん立ち上げ活発に活動することで、女性組織全体が元気になります。

★また女性組織の仕組みはできるだけ簡素にして、メンバーが参加しやすい、役員らの負担の少ないものにしましょう。

★さらに、ＪＡ女性組織として学びを重視して社会的な広がりを持つことが、メンバーの誇りにもつながり、地域社会に貢献することになります。

➡ 別表Ａの１（P30）、別表Ｂの❶（P32）参照

2 メンバーの拡大と活動の充実・リーダーの育成に取り組む

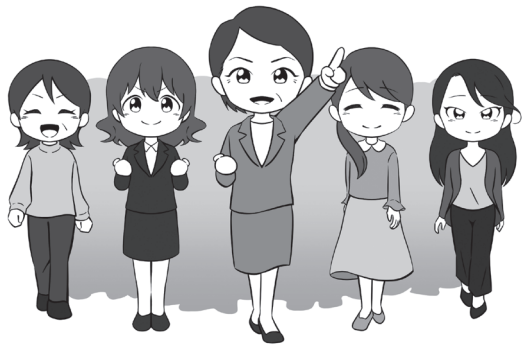
（1）仲間を増やす

どういった人に仲間になってもらいたいかを明確にして、メンバーの一人ひとりがメンバー拡大に取り組めるようにすることが重要です。解散してしまった地区や脱退する人の多い地区があれば、その原因を把握して、次の仲間づくりに生かしていきましょう。

Point

- まずは女性組織やＪＡの活動を多くの人に知ってもらいましょう
- 対象者のセグメントを意識した取り組みを展開しましょう（たとえば：子育て世代に「農業体験」「資産形成」、50～70代に「生きがいづくり」「健康」などのテーマで。P16,17参照）
- ＪＡ女性組織活動に参加してもらうために、地域住民にとってハードルの低い・間口の広い「入口」を用意しましょう
- 具体的なメンバー増を意識した各種講座や教室を開設しましょう
- 地元の飲食店などと連携して会員優待制度を設けるなど、女性組織メンバーになることのメリットを打ち出しましょう
- 学校や行政、自治会など、他団体と連携して各種の行事に関わるなど、ＪＡ女性組織を幅広く知ってもらうとともに、社会的な貢献活動を行いましょう
- 広報誌などの媒体やＳＮＳ、二次元コードなどを駆使して効果的な告知・人集めに取り組み、グループ活動や支部活動の参加に誘いましょう
- 単発のイベントでなく、年間でストーリー性や継続性のある魅力的な企画を用意しましょう

（2）女性組織のリーダーを育成する



活発な活動を継続していくためにも、リーダーの存在は欠かせません。また、メンバーが入れ替わっても活発な活動を持続するには、リーダーを育てる環境があることも重要です。事務局としてしっかり育成しましょう。

Point

- 多様なグループのリーダーを対象とした研修会を開くなど、リーダー育成を重視しましょう
- グループ間の交流機会を設けてメンバー同士の交流の拡大を図るとともに、リーダーの経験蓄積と視野拡大をすすめましょう
- ＪＡの女性大学や組合員大学で、リーダーの学びの機会を増やしましょう
- グループ活動のリーダーが女性組織の役員となる方向で本部組織、支部組織の改革を検討しましょう

ま　と　め

★ＪＡ女性組織のメンバー数は減り続けています。いま大事なことは、メンバーの減少にできるだけ歯止めをかけ、増やすこと（「量」の追求）、そして、活動内容を充実し

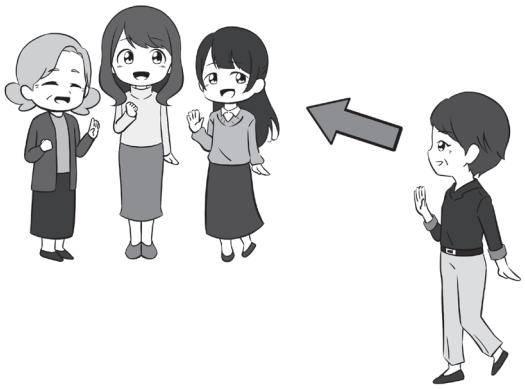
たものにし、リーダーを育てること（「質」の追求）です。

★仲間を増やす活動に積極的に取り組み、リーダーの育成に取り組みましょう。

➡ 別表Ａの２（P30）、別表Ｂの❷（P34）参照

3 「ＪＡの女性組織」であることを重視する

（1）メンバーのＪＡ組合員加入をすすめる



「こころざしを同じくする女性の組織」として「女性の声をＪＡ運動に反映する」という目的を達成するためにも、「協同する仲間づくり」は常に重要な取り組みです。員外利用ではなく組合員として、事業を利用し活動に参加・参画していく仲間を増やしましょう。そのためにも組合員加入メリットを示すとともに、ＪＡ運動への理解を深めましょう。

Point

- ＪＡの女性組織であることを学び、自覚する機会を増やしましょう
- グループ活動参加の条件にＪＡでの口座開設を求めるなど、ＪＡ事業とのつながりをつくりましょう
- ＪＡは記念品や事業利用上の優遇措置など、組合員加入メリットを示しましょう
- 女性組織メンバーの組合員加入促進運動をすすめましょう

（2）女性組合員に女性組織への加入をすすめる

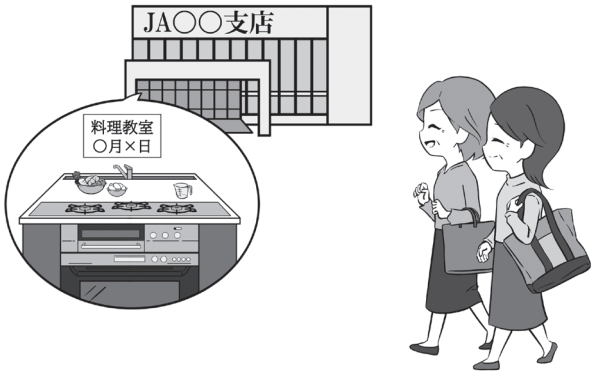
組合員でありながら女性組織に加入しない理由は、役員になるのが不安であったり、地域のしがらみが面倒であったり、あるいは活動そのものを知らないという人もいるかもしれません。支部や地域の垣根を越えたグループ活動もあることや、気軽に参加・交流できるイベントなど、女性組織の魅力や加入メリットを積極的に伝えましょう。

生産組合など他の組合員組織に所属している組合員には、組織の横連携でお互いの活動に協力して取り組むなど、負担感の少ない新たな運営もすすめましょう。

Point

- 未加入の女性組合員にとって魅力的な活動テーマを設定し、負担にならない、参加しやすい仕組みづくりをすすめましょう
- 女性組織の加入メリットを示しましょう
- ＪＡの他の組合員組織と連携して女性組織への加入を促進しましょう（たとえば：「年金友の会」「アンパンマンこどもくらぶ」「出荷者組合」など）

（3）活動拠点として支店（ふれあいセンター・加工所など）を整備する

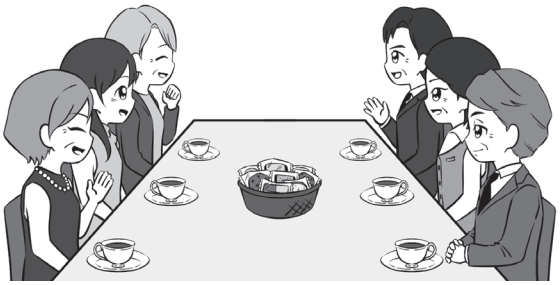


女性組織メンバーが集まりやすい場所をＪＡが提供するということは、メンバーのＪＡへの帰属意識を育みます。支店統廃合は避けて通れない状況においても、「地域の居場所」として施設を残していく方向もあります。職員にとっては「組合員との身近な接点づくり」、女性組織メンバーにとっては「ＪＡを身近に感じてＪＡファンになる」、そのための設備・ハードを担保しましょう。

Point

- 「使いやすい」「人が集まる」施設、「居場所」の機能を持ったＪＡ施設を整備しましょう
- 夜間や休日の活動サポートのために、施設利用のルールを決めましょう

（4）ＪＡ役職員との交流で活動と事業の好循環を促進する

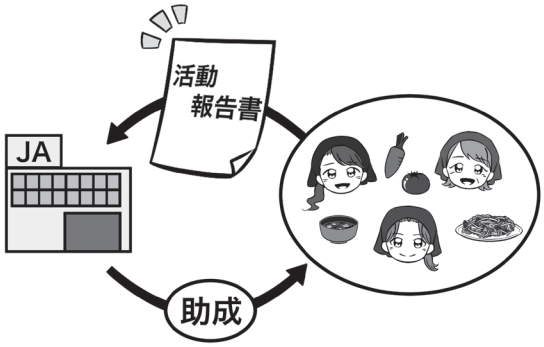


スマートフォンの普及などにより、組合員が支店に足を運ぶ機会が減っています。組合員やＪＡ役職員との接点づくりの場を設定しましょう。

Point

- 女性組織と本・支店職員との交流会を持つなど、両者の接点づくりと相互理解に努めましょう（とくに渉外・ＬＡの理解促進）
- 多くのＪＡ職員に女性組織活動に参加してもらい、女性組織への認識を深めてもらうとともに事業利用につなげましょう
- 女性組織とＪＡの結びつき強化で、地域社会における双方の存在価値を高めあいましょう
- ＪＡ役員と女性組織メンバーとの意見交換会を行い、女性の声をＪＡ運動に反映しましょう

（5）活動費用の分担方法を変える



活動参加費は受益者負担が原則です。メンバーの参加意識・帰属意識・仲間意識を高めるために、より良い資金の生かし方に変えていきましょう。

Point

- ＪＡから女性組織への助成は、一律の組織助成ではなく活動実態に応じた助成の方向をめざしましょう
- グループ活動の助成を活動回数や実績に応じたものにしましょう

ま　と　め

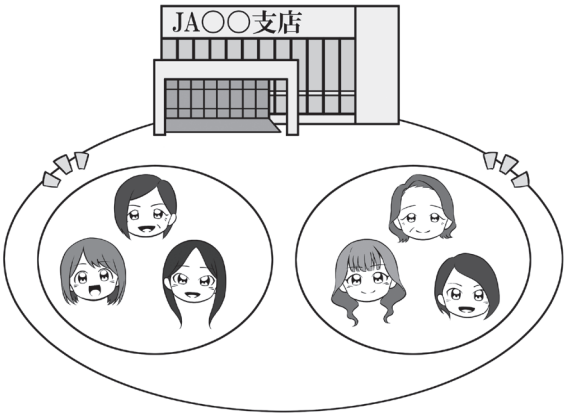
★ＪＡ女性組織は、ＪＡの「組合員組織」として位置づけられています。ＪＡの理念や目的、ＪＡ女性組織の理念を学び、ＪＡと連携しながら活動しましょう。

★ＪＡの役職員との協力やＪＡの他の組合員組織との連携を強めて、農業の振興と地域社会の活性化に努めましょう。

➡ 別表Ａの３（P31）、別表Ｂの❸（P36）参照

4 支店エリアの活動を重視する

（1）支店エリアの活動を重視し、活性化させる



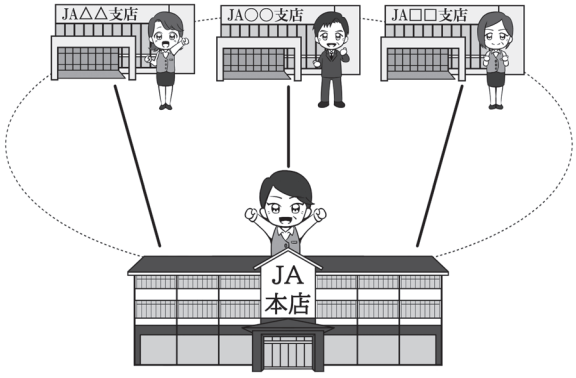
組織活動の満足度を高めるためには「いつでも･楽しく」できる活動を促進することが肝要です。ＪＡが広域化して施設の統廃合がすすんでも、女性組織メンバーにとって最も身近にあり、ＪＡの顔となるのはやはり支店であり、それを支える職員です。

支店エリアを意識した活動の活性化と職員の役割発揮から、支店の結集力を高めましょう。

Point

- 支店エリア内にたくさんのグループをつくって、支店の活性化につなげましょう
- 支店全体の職員理解で女性組織の活性化とＪＡ事業・地域の活性化に努めましょう
- 支店に女性組織担当の職員を置きましょう
- 支店長・支店職員の女性組織に関わる役割を分掌規程により明確化しましょう
- 特定の職員に依存しない仕組みをつくりましょう
- 支店運営委員会やふれあい委員会などと連携して、女性組織と支店の活性化につなげましょう

（2）本店と支店の役割分担



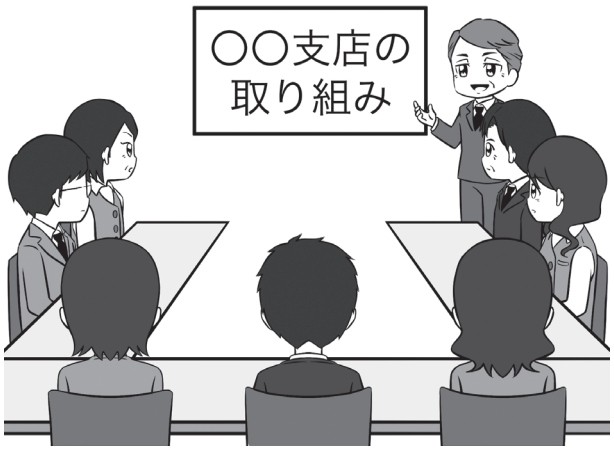
支店は女性組織活動を充実させるための重要な機能を持っています。本店はヒト･カネ･体制の面で全体の統括･調整機能を発揮しなければなりません。女性組織の活動支援は本店と支店や営農経済センターなど、部署間の役割分担を適切に行い、負担軽減を図りながら、ＪＡ全体で本来業務として取り組みましょう。

Point

- 本店と支店の担当者が密接に連携・交流し、問題意識・方向性を共有しましょう
- 男性・女性の性別によらず担当職員を配置しましょう
- 女性組織事務局を経験してから支店に異動するなど、支店と女性組織との良好な関係構築に配慮しましょう
- 支店の領域を越えて結成されるグループ情報などを全体で共有しましょう

・ＯＢ・ＯＧの再雇用や女性組織活動を支援するボランティアスタッフを募集するなど、ＪＡ外にも目を向けましょう
・ＪＡとして女性組合員の意思反映・運営参画の仕方を工夫して制度化しましょう

（3）本店・支店の事務局職員の育成・スキルアップ



女性組織活動は、ＪＡファンづくり、人と人との接点づくり、地域の活性化・元気づくりにもつながる教育文化活動の領域にあり、ＪＡ全体で取り組むべきものです。したがって職員の活動への理解を高める必要のあることはもちろんですが、組織の運営を担う事務局職員は、組織事務局としてのスキルアップが必要です。

女性組織メンバーの満足度が高まるよう、事務局職員のスキルアップを図りましょう。

Point

・担当職員の役割（実務者：マネージャー、企画者：プランナー、啓発者：エデュケーター、促進者：ファシリテーター）を認識し、スキルアップに努めましょう
・担当者会議や他部署の職員も入った研修会や活動発表会を開催するなどして、支店長を含めた職員の組織活動への意識向上と相互研鑽を促しましょう

ま　と　め

★ＪＡの支店は大型化しています。グループもその多くは支店エリア内での活動です。メンバーの参加範囲や地域社会のなりたちを考えても、できるだけ支店エリア内での活動を重視し、その活性化を図ることが重要です。

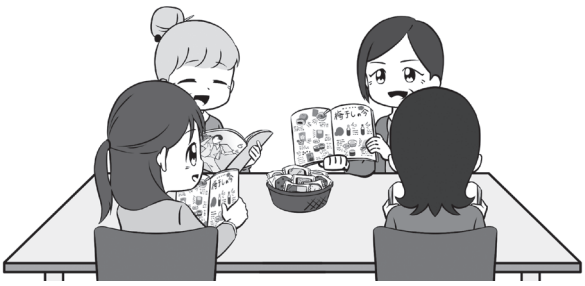
★そのために、支店の事務局体制やグループ活動支援を強化する必要があります。また、ＪＡの支店運営委員会やふれあい委員会などの組織と連携して活動することも重要です。

★担当職員のスキルアップと同時に、支店長はじめ幅広い職員への教育文化活動と女性組織活動への理解促進と、支援体制づくりが必要です。

➡ 別表Ａの４（P31）、別表Ｂの❹（P38）参照

5 家の光事業を活用して女性組織の存在価値を高める

（1）日々の記事活用・文化活動で、くらしを豊かにしよう



女性組織メンバーは、メンバーである以前に一個人です。一人一人の意識を高め、身近なくらしをより良くしていき、女性組織活動に参加し、仲間や地域に活動の輪を広げていきましょう。

まずは一人一人が『家の光』を読み、くらしに生かし、さらにグループの活動、組織活動

につなげていきましょう。

Point

- 『家の光』を読んで知識を広めるとともに、ＪＡ運動への意識を高め、くらしを豊かにしましょう
- 『家の光』を女性組織の活動にどう活用できるか考えましょう（たとえば：料理教室、手芸教室、健康教室、園芸教室、防災教室など）
- 諸会合で『家の光』を読む機会を設けることで、他者の視点からの気づきと学びを得て、読書をつうじたメンバーの交流・相互理解をすすめましょう
- 小グループ、目的別グループの活動に『家の光』を活用しましょう（たとえば：家の光記事活用グループから、ＪＡ事業・活動の活性化への発展……加工グループが新商品を開発、園芸グループが直売所に出荷、料理グループメンバーによるフレッシュミズへの伝承料理の講習会、など）

（２）活動の成果を共有しよう

女性組織の活動をさらに深化させ発展させていくためには、活動の成果をメンバーが共有し相互に研鑽を重ねることがたいせつです。活動の成果を共有する場として、ＪＡ家の光大会やグループ交流会などを開きましょう。分かち合い、学び合うことが協同活動をより発展させていきます。

また、活動の成果である手芸作品やグループの取り組みを紹介する機会を設けましょう。支店窓口や施設ロビーでの作品展示などを行うことで、女性組織メンバーにとっては活動のＰＲになり、ＪＡにとっては来訪者に楽しんでいただける場所を提供できます。

Point

- 女性組織による記事活用体験発表、作品展示など、自己表現の場としてＪＡでの家の光大会を充実させましょう
- 支店窓口の「家の光ディスプレイコンテスト（記事活用作品や『家の光』読みどころなどの展示）」など、地域の拠り所としての支店を充実させましょう

（３）活動を地域に広げよう

女性組織は、食文化の伝承、ＳＤＧｓ、高齢者福祉、環境美化、防災など、地域にとって役立つ･求められる「地域貢献活動」に取り組んでいます。さまざまな活動に『家の光』や『ちゃぐりん』が活用されています。

『家の光』や『ちゃぐりん』を活用して、地域社会における女性組織の存在価値をさらに高めましょう。

Point

・女性組織の取り組む地域貢献活動に、『家の光』の実用記事（料理、手芸、健康、園芸、防災など）を活用しましょう
・『家の光』に掲載されている女性組織の活動事例を、自身の女性組織の活動に取り入れましょう
・『ちゃぐりん』を活用して子どもたちへの読み聞かせや農業体験など食農教育をすすめましょう

ま　と　め

★小グループ活動など女性組織の活動にとって、『家の光』はとても有効な手段です。さまざまな場面で活用するとともに、多くのメンバーで講読しましょう。

★ＪＡで開催する家の光大会をより充実させ、記事活用体験発表に取り組むなど、女性組織の活動をいっそう宣伝し、広めましょう。

★女性組織が取り組むさまざまな地域貢献活動にも『家の光』『ちゃぐりん』を活用しましょう。

➡ 別表Ａの１、５（P30、31）、別表Ｂの❺（P40）参照

Ⅳ 仲間づくりと組織の活性化に着手するために

1 女性組織の自己点検

具体的方策に着手するために、まずは、いま女性組織はどのような状況なのか、担当者としてチェックしましょう。そして、メンバーの生の声を把握しましょう。

（1）現状分析　――チェックシート 別表Ａ（P30）を使いましょう

【チェックシートの概要】

①現状、女性組織がどのようなことに取り組んでいるか、自分はどのように活動内容を評価するかなど、40のチェック項目を、Ⅲ章の「５つの方向」に沿って分類しています。

②活動の良しあしを判断するものではありません。女性組織の抱える課題を抽出し、改善に向けて何に取り組むかを明確にしましょう。

③「対応する方向」には、それぞれのチェック項目に対応する実践方策、事例について、別表Ｂ（Ｐ32）の項目番号が記されています。

【チェックシートの活用方法】

①それぞれの質問項目にたいして、当てはまると思う項目のチェック欄に、チェック“☑”を入れましょう。

②チェック内容を踏まえて、これから取り掛かりたい･強化したい方策を、別表Ａ最下段の記入欄に３つ記入しましょう。

③チェックされなかった項目で充実･改善したい項目については、別表Ｂの方策や実践事例を参考に、充実･改善策を検討しましょう。

④このチェックシートはＪＡ職員向けですが、「１．テーマ軸のグループ活動を強化する」「２．メンバーの拡大と活動の充実･リーダーの育成に取り組む」は女性組織の役員（部長、副部長、支部長など）にも、ぜひチェックしてもらいましょう。

（2）メンバーの生の声を把握しよう

①アンケートの実施

定例の会議や日々の活動の場でもメンバーの声を聴く機会はありますが、あらためて活動を振り返り、メンバーの意思や願い、ニーズを把握するために、アンケートを実施しましょう。

アンケートは、常日頃から顔を見合わせる機会の多い役員だけでなく、できれば一般のメンバーも含めて、声を集めるほうが良いでしょう。

また、メンバーは入れ替わりがあり、ニーズは変化するものです。アンケートは定期的に（毎年、３年に１回、など）行って、全体の把握をしましょう。

アンケート項目の一例を以下に示します。それぞれの女性組織の活動内容に応じて設問を修正し、実施してみてください。

アンケートの例

ＪＡ〇〇 女性組織 意識調査アンケート

女性部に関するアンケート

問８．あなたは女性組織活動のどんな点が有意義だと思いますか？（★複数回答可）

- ☐ ① 仲間づくりができる
- ☐ ② 暮らしに「ハリ」が出る
- ☐ ③ 趣味が生かせる
- ☐ ④ 健康づくりができる
- ☐ ⑤ 地域貢献ができる
- ☐ ⑥ 旅行や観劇に参加できる
- ☐ ⑦ 学習や知識を深めることができる
- ☐ ⑧ 女性の声をＪＡに届けることができる
- ☐ その他:

問９．女性組織活動で不満に思うことはありますか？（★複数回答可）

- ☐ ① 活動のマンネリ化
- ☐ ② 役員を勧められる
- ☐ ③ 参加したい活動が少ない
- ☐ ④ 外部との交流が少ない
- ☐ ⑤ 人間関係がわずらわしい
- ☐ その他:

＊三重県ＪＡみえ女性連絡会議のアンケートを参考に作成。
＊下記のＵＲＬ・二次元コードからご覧になれます→
https://forms.gle/624h7YEtpofQtnyMA

②GoogleフォームなどのWebフォームの活用

アンケートは集計に手間がかかるものですが、近年では「Googleフォーム」といった、アンケート集計にも使える便利なツールがあります。メンバーがスマートフォンやパソコンを使うのに慣れる機会としても、活用してみましょう。

別表Ａ

女性組織の現状分析チェックシート

１．テーマ軸のグループ活動を強化する	☑	対応する方向
①メンバーにとって魅力ある活動を実施していますか？	□	❶（1）（2）（3） ❺（1）
②ＪＡにとって有意義な活動（購買・販売事業につながる活動など）を実施していますか？	□	❶（1）（2）（3） ❸（1）（4）
③地域にとって価値ある活動（地域貢献活動など）を実施していますか？	□	❶（2）（3） ❺（1）（2）
④「楽しい」かつ「ためになる」、学びとセットになった活動を実施していますか？	□	❶（3） ❺（1）
⑤子育て世代・次世代を対象とした活動を実施していますか？	□	❶（2） ❷（1）-1，-3
⑥メンバーが自ら企画して自主的な活動を実践していますか？	□	❶（1） ❺（1）
⑦メンバーの願いやニーズを反映した活動を実践していますか？	□	❶（1）（2） ❺（1）
⑧支部ごとに独自の活動（教室、イベントなど）を実施していますか？	□	❶（2） ❸（3）❹（1）
⑨目的別のグループ活動を行っていますか？	□	❶（1）（2） ❺（1）
└⑩グループのメンバーによる自主的な活動になっていますか？	□	❶（1） ❺（1）
⑪メンバー同士やグループ間で、交流する場はありますか？	□	❶（1）（2） ❺（1）（2）
⑫役員の負担軽減（役割の見直しや人数・会合数の削減など）を実施していますか？	□	❶（4） ❷（2）
⑬メンバーとの連絡に、ＬＩＮＥなどのＳＮＳを有効活用していますか？	□	❶（4）

２．メンバーの拡大と活動の充実、リーダーの育成に取り組む	☑	対応する方向
⑭次世代など対象を明確にしてメンバー拡大に取り組んでいますか？	□	❷（1）-1，-2，-3
⑮メンバーの一人ひとりがメンバー拡大に取り組んでいますか？	□	❶（1）❷（1） ❸（2）
⑯女性組織を解散した地区や脱退者の多い地区の原因を把握して、脱退・解散防止対策を行っていますか？	□	❶（4）❷（1） ❸（4）
⑰地域住民が広く参加する活動を実施していますか？	□	❷（1）-1，-2，-3 ❺（2）
└⑱その活動の参加者を女性組織に勧誘していますか？	□	❷（1）-1，-2，-3
⑲学校や行政、自治会など他団体と連携した活動を実施していますか？	□	❷（1）-3
⑳組織を主体的に支えてくれる“リーダー”の育成を行っていますか？	□	❷（2）

わたしの実践方策	☆取り掛かりたい・強化したい方策を、３つ記入しましょう。	1

3.「ＪＡの女性組織」であることを重視する	☑	対応する方向
㉑ＪＡや協同組合に関する学習の機会を設けていますか？	□	❶（3）❸（1） ❺（1）
㉒女性組織メンバーの組合員加入促進を行っていますか？	□	❸（1）
㉓組合員やＪＡ事業利用者を女性組織に勧誘していますか？	□	❸（2）
㉔女性組織の活動はＪＡ事業に波及効果をもたらしていますか？	□	❸（1）（4）
㉕ＪＡの支店など、メンバーの居住地に近いところで、気軽に集まれる場所を確保していますか？	□	❸（3）
㉖他部門の職員は、女性組織の活動に参加していますか？	□	❸（4）❹（1）
㉗他部門の職員は、情報提供などに協力的ですか？	□	❸（4）❹（1）
㉘他部門の職員と女性組織メンバーが交流する機会はありますか？	□	❸（4） ❹（1）（2）
㉙ＪＡ役員が女性組織の活動に関与する仕組みや仕掛けはありますか？	□	❸（4）
㉚ＪＡ役員と女性組織メンバーとの定期的な懇談（意見交換）の場を設けていますか？	□	❸（4）
㉛ＪＡから女性組織活動への経費支出（活動助成、優待など）は効果的に行っていますか？	□	❸（1）（5）

4．支店エリアの活動を重視する	☑	対応する方向
㉜本店と支店の連携はとれていますか？	□	❹（1）（2）
㉝支店長が女性組織の活動に関与する体制になっていますか？	□	❹（1）（2）
㉞（支店に専任担当者がいない場合）支店に女性組織窓口はありますか？	□	❹（1）（2）
㉟他部門と連携するなど、事務局の負担を軽減する対策を講じていますか？	□	❹（2）
㊱事務局職員の育成を体系的に（定例会議や研修などで）行っていますか？	□	❹（3）

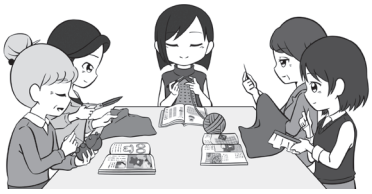
5．家の光事業を活用して女性組織の存在価値を高める	☑	対応する方向
㊲『家の光』の記事を活用した活動を実施していますか？	□	❶（1）（2） ❺（1）（2）（3）

全般	☑	対応する方向
㊳活動・行事への参加募集や活動の報告・告知など広報活動に、ＳＮＳ（Instagram など）やＷｅｂフォーム・二次元コードを活用していますか？	□	❶（4） ❷（1）-1，-2，-3
㊴女性組織の運営・活動の実績を振り返り、その要因を把握し、対策を講じるようにしていますか？	□	❸（4） ❹（2）（3）
㊵活動全体の“統一テーマ”や活動方針・基本方針などを定めていますか？	□	❶（2）

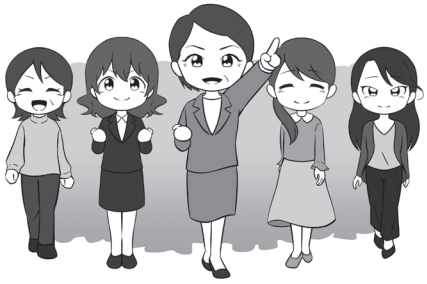
2	3

別表Ｂ

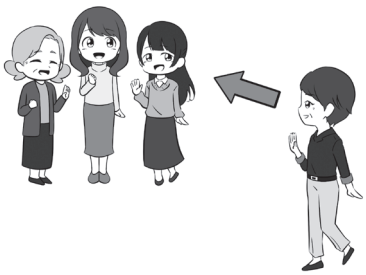
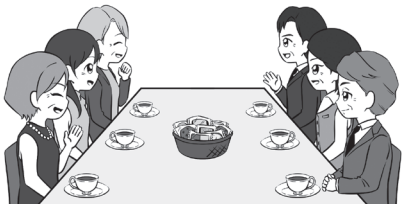
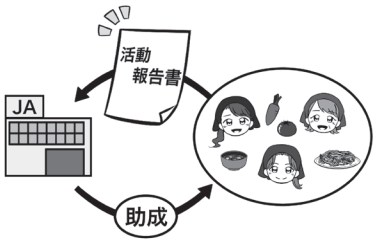
仲間づくりと活性化をすすめる５つの方向　具体例リスト

	方向	ポイント
❶テーマ軸のグループ活動を強化する	（1） テーマ（目的）別の自主的なグループ活動を育て、活性化させる	・テーマ別のグループ活動をＪＡ女性組織の活動手段の主軸にすえましょう ・新しいグループ（5 ～ 10 名目安）を増やしましょう ・今あるグループのなかに新メンバーを迎え入れましょう ・同じテーマでもグループをたくさんつくり、仲間を増やしましょう ・グループには年５回以上の活動を促しましょう ・グループ同士の交流や発表の場を設けて、女性組織全体への関心を高めましょう ・支部段階で、無理なく集まれるメンバーから、グループづくりをすすめましょう ・支部内のグループだけでなく、支部の領域を越えたメンバーで構成されるグループづくりをめざしましょう 
	（2） メンバーの期待に沿った、くらしに密着した魅力的なテーマを設定する	・「ＪＡの女性組織」らしい主要活動テーマを設定しましょう（たとえば：「食と農」「健康」「防災」「ライフプラン」「環境」「娯楽」「親睦（旅行）」） ・各世代に共通したテーマを毎年設けて、幅広いＪＡ女性組織活動を促進しましょう（たとえば：「食と農」「健康」「防災」など） ・それぞれの世代に向けた魅力的な活動テーマを設定しましょう（たとえば：子育て世代向けに「親子参加型のイベント」「美容」、50 ～ 70 代向けには「健康」「相続」など）
	（3） 学びを重視して社会的な広がりを持つ	・さまざまなテーマの活動をつうじて「学び」と「成長」を重視しましょう ・ＪＡ女性組織、ＪＡ、そして協同組合について積極的に学ぶ場を持ちましょう ・ＳＤＧｓへの取り組みなど、社会的な意義を意識した活動を重視しましょう ・「楽しい」かつ「ためになる」要素を取り入れましょう ・各種の学習をつうじて、ＪＡ女性組織の「リーダー育成」に意識的に取り組みましょう
	（4） 参加しやすい組織づくり	・ピラミッド型の画一的な組織構造にとらわれず、柔軟な運営に努めましょう ・支部の解散などで所属先がなくなったメンバーのために、支部に属さない個人会員化など、柔軟な対応をとりましょう ・会費制度や名簿管理の方法などを点検し必要な改善をしましょう ・女性組織役員の役割や役員数を見直して役員の負担軽減に努めましょう ・本部役員会をグループ活動の代表者などによる“協議会方式”にするなど、必要な改善を行いましょう ・会員同士の連絡や行事の参加募集などにＳＮＳ（LINE など）を有効活用しましょう

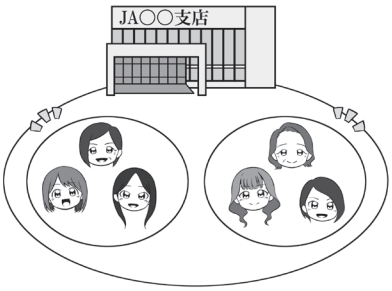
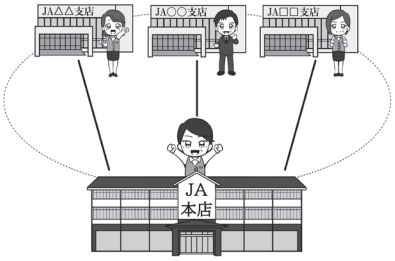
具体例
☆**ＪＡあつぎ【目的別グループと趣味別グループ】**……ボランティア活動などを行う「目的別グループ」と、地域を超えて共通の趣味を持つ仲間の集まる「趣味別グループ」がある ☆**ＪＡひまわり【わい！わい！活動】**……支部制を撤廃し、教室形式の“単一目的（目的別）グループ”と手挙げ式の”多目的（エリア・自主的）グループ”が活動。「やりたいことを、気の合う仲間で楽しく実現する」ことをめざす ☆**ＪＡ小松市【本部活動の目的別グループ】**……食農教育のグループなど、自主的な運営により活動が活発になっている ☆**ＪＡぎふ【家の光小グループ交流会“ときめきサロン”】**……『家の光』の持ち寄り学習のほか、記事活用作品や野菜などを販売。おしゃべりタイムや体操など、参加者アンケートの意見をプログラムに反映している
☆**ＪＡわかやま ありだ地域本部【①もったいない大作戦】**……リメイクや食材の再利用などのアイデアを募集。インスタグラムを活用 **【②ボッチャ大会】**……誰でも参加しやすいスポーツ大会の開催 **【③防災活動】**……防災中期計画を策定し簡易トイレづくりなどを実施。『家の光』を活動活性化のヒントにしている ☆**ＪＡ周桑【女性部田野支部　わくわくクラブ・集落別ミニグループ】**……「暮らしに役立つ、趣味を楽しむ、健康長寿をめざす、仲間と楽しく交流を深める、地域が元気になる」をモットーに、活発に活動中。活動のさいは『家の光』読書会や記事活用を実施している
☆**ＪＡ上伊那【班別懇談会】**……JA 役職員を交えた地域密着の学習会。各支所・集落公民館・集会所を会場として、統一資料をもとに“食の安全”“農業”“女性組織について”などの学習を深める ☆**ＪＡ広島市【女性部の発案による協同組合学習】**……「レディース講座」「トップ・支部長研修会」のなかで実施。女性組織の重点活動項目に「次世代のリーダーを育成し魅力ある活動を通して仲間づくりを行い、新規会員を増やすこと」を掲げ、ＪＡの理解者、ＪＡファンを増やすことをめざす ☆**ＪＡ筑前あさくら【協同組合講座】**……３年に一度、任期初年度に開催。女性総代だけでなく、女性部役員（地区部長）も参集。県中央会より講師を招き、1 時間程度の時間を設け、協同組合の基礎的内容についての学習を行う
☆**ＪＡ小松市【こまとくらぶ】**……管内女性なら誰でも参加可能な伝承料理やみそ作りなどの講座。アンケートをもとに喜ばれる活動を企画。ポイントカードや支部女性部への加入などでメリットもある ☆**ＪＡあいち中央【がやがやワクワク会】**……支店で活躍する女性リーダー（組織代表者、女性大学修了生など）が集まり、支店の女性組織活動について協議し、支店運営に女性の意見を反映させるきっかけをつくる ☆**ＪＡグリーン近江【①本部役員と支部役員の分離化】**……役員の負担軽減に **【②協力隊】**……支部役員のなり手がいない場合の協力体制を明確化 **【③デジタルツールの活用】**……独自のアプリや LINE を活用して連絡事務を効率化している ☆**ＪＡひまわり【イベントサポートメンバー】**……女性部活動時に、活動支援に協力するボランティアを募集している ☆**ＪＡ菊池【個人会員制度】**……大津支部女性部は地区グループ、職員グループ、個人会員、フレッシュミズで構成されている

	方向	ポイント
❷メンバーの拡大と活動の充実・リーダーの育成に取り組む	（1）－1 仲間を増やす（子育て世代へのアプローチ）	・まずは女性組織やＪＡの活動を多くの人に知ってもらいましょう ・対象者のセグメントを意識した取り組みを展開しましょう（たとえば：子育て世代に「農業体験」「資産形成」、50 ～ 70 代に「生きがいづくり」「健康」などのテーマで） ・ＪＡ女性組織活動に参加してもらうために、地域住民にとってハードルの低い・間口の広い「入口」を用意しましょう ・具体的なメンバー増を意識した各種講座や教室を開設しましょう ・地元の飲食店などと連携して会員優待制度を設けるなど、女性組織メンバーになることのメリットを打ち出しましょう ・学校や行政、自治会など、他団体と連携して各種の行事に関わるなど、ＪＡ女性組織を幅広く知ってもらうとともに、社会的な貢献活動を行いましょう ・広報誌などの媒体やＳＮＳ、二次元コードなどを駆使して効果的な告知・人集めに取り組み、グループ活動や支部活動の参加に誘いましょう ・単発のイベントでなく、年間でストーリー性や継続性のある魅力的な企画を用意しましょう
	（1）－2 仲間を増やす（50 ～ 70 代へのアプローチ）	
	（1）－3 仲間を増やす（ハードルの低い・間口の広い「入口」を用意する）	
	（2） 女性組織のリーダーを育成する	・多様なグループのリーダーを対象とした研修会を開くなど、活動グループのリーダー育成を重視しましょう ・グループ間の交流機会を設けてメンバー同士の交流の拡大を図るとともに、リーダーの経験蓄積と視野拡大をすすめましょう ・ＪＡの女性大学や組合員大学で、リーダーの学びの機会を増やしましょう ・グループ活動のリーダーが女性組織の役員となる方向で本部組織、支部組織の改革を検討しましょう 

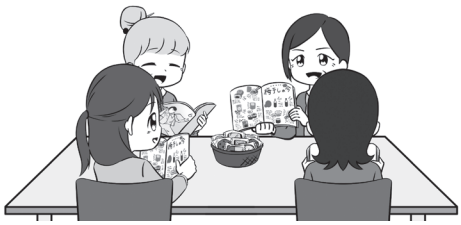
具体例
☆**ＪＡみやぎ仙南【女性大学ＯＧ会】**……目的別グループとして発足。地域の女性を中心に自分時間コースと親子体験型コースの２部に分かれて講座へ参加している。ＪＡ事業の理解が促進され、事業利用拡大にも効果があった。女性部との交流も促進している ☆**ＪＡあつぎ【こどもグリーンだより】**……管内小学生全員に配布。食農に関する情報や親子向けの募集企画を掲載（プレゼントあり）。各種参加いただいた親子に対しＪＡ事業やフレミズの年間企画を紹介。フレミズ増員のきっかけになっている ☆**ＪＡ晴れの国岡山【家の光ライフプランセミナーを女性部と協力して開催】**……フレッシュミズ世代（ＪＡを知らない）を対象に、ＪＡ（事業）を知ってもらうための学習会を企画・運営。ＪＡ女性部が託児やスイーツ提供などに全面協力している
☆**ＪＡ福島さくら【①みそづくり】**……地元産大豆を使用し、全地区で実施中。ＪＡの貸農園利用者など、地域住民を対象とした講習会にも発展している　**【②健康スポーツ倶楽部】**……ダンス、カラオケなど支部ごとに教室を設置。ウオーキングや運動会、弁当コンテストなども展開し広く仲間を増やすアプローチをしている ☆**ＪＡ筑前あさくら【未加入者紹介制度】**……グループ活動の参加者が女性大学「フルリスト」へ参加を希望する場合、女性組織未加入者の紹介を要件としている。メンバー増につながるとともに、ニーズに応える活動もより活発になっている
☆**ＪＡいわて花巻【リンゴケーキ・おいしいコーヒーの講習会】**……女性部活動の魅力を多くの地域住民に知ってもらい、新たな部員を呼び込む取組として実施している ☆**ＪＡあつぎ【①女性部ふれあい体験】**……1 年間の女性部体験入部制度　**【②次世代部“Neo フレミズ”】**……組合員または組合員家族の女性 20 ～ 55 歳で構成。女性部の年代別組織として位置づけ、次世代部と女性部の活動に参加できる　**【③ＰＴＡ出前授業】**……ＪＡが地域のＰＴＡに出向くきっかけづくりとして出前授業を設置し、組合員が講師となって料理や手芸などの講座を実施。ＰＴＡ出前授業の活動をつうじてＪＡ事業やフレミズの年間企画を紹介。フレミズ会員が増えた。①②③をつうじ、地域の女性が料理や農業、健康、趣味、学校や地域活動など、さまざまなテーマや場面で女性組織に触れる機会を作っている ☆**ＪＡあいち中央【フレミズの森】**……次世代を対象に、食の安全安心を考える機会とし、ＪＡ事業の理解を促し活動から事業へつなげＪＡファン増大につながる活動を行う
☆**ＪＡ上伊那【ミドルミズ大学（40 ～ 60 代）、ナイスマーム講座（60 歳以上）、カミーちゃん農園（45 歳以下）】**……世代別のリーダー育成の取組。なかでも「ミドルミズ大学」は『家の光』をテキストにブロック毎に開講している。組合員加入で受講料の減免もある ☆**ＪＡあいち中央【ときいろカレッジ】**……女性組合員リーダーを養成し、事業・経営への参加・参画に繋げる目的で開催。地元農産物を使用した商品開発を行い、ＪＡまつりで出店するなど“学び”“楽しみ”“考える”をコンセプトに実施している ☆**ＪＡ筑前あさくら【フルリスト】**……料理や旅行など多彩な内容で、管内６地区毎に開講している女性大学

	方向	ポイント
❸「ＪＡの女性組織」であることを重視する	（1） メンバーの JA 組合員加入をすすめる	・ＪＡの女性組織であることを学び、自覚する機会を増やしましょう ・グループ活動参加の条件にＪＡでの口座開設を求めるなど、ＪＡ事業とのつながりをつくりましょう ・ＪＡは記念品や事業利用上の優遇措置など、組合員加入メリットを示しましょう ・女性組織メンバーの組合員加入促進運動をすすめましょう 
	（2） 女性組合員に女性組織への加入をすすめる	・未加入のＪＡ組合員女性にとって魅力的な活動テーマを設定し、負担にならない、参加しやすい仕組みづくりをすすめましょう ・女性組織の加入メリットを示しましょう ・ＪＡの他の組合員組織と連携して女性組織への加入を促進しましょう（たとえば：「年金友の会」「アンパンマンこどもくらぶ」「出荷者組合」など）
	（3） 活動拠点として支店（ふれあいセンター・加工所など）を整備する	・「使いやすい」「人が集まる」施設、「居場所」の機能を持ったＪＡ施設を整備しましょう ・夜間や休日の活動サポートのために、施設利用のルールを決めましょう
	（4） ＪＡ役職員との交流で活動と事業の好循環を促進する	・女性組織と本・支店職員との交流会を持つなど、両者の接点づくりと相互理解に努めましょう（とくに渉外・ＬＡの理解促進） ・多くのＪＡ職員に女性組織活動に参加してもらい、女性組織への認識を深めてもらうとともに事業利用につなげましょう ・女性組織とＪＡの結びつき強化で、地域社会における双方の存在価値を高めあいましょう ・ＪＡ役員と女性組織メンバーとの意見交換会を行い、女性の声をＪＡ運動に反映しましょう 
	（5） 活動費用の分担方法を変える	・ＪＡから女性組織への助成は、一律の組織助成から活動実態に応じた助成の方向をめざしましょう ・グループ活動の助成を活動回数や実績に応じたものにしましょう 

具体例
☆**ＪＡはだの【女性部ポイントカード制度】**……女性部活動などに参加するとポイントがつく。ＪＡ組合員に新規加入した場合などでもポイントがつく。ポイントに応じて景品を用意している。ポイントカード制度を活用し部員の満足度を向上させるとともに活動の活性化をめざす ☆**JA ひまわり【加入条件に JA 口座開設】**……女性組織メンバーの事業利用率が高い。女性組合員・総代・役員の比率が第 30 回 JA 全国大会決議で掲げられた目標を上回っており、女性参画が進展している ☆**ＪＡ北さつま【女性部学習会資料】**……ＪＡ運動の意義と組合員加入メリットなど、イラストを用いてわかりやすくまとめた資料を作成。さまざまな会合で資料説明の時間を設けている
☆**ＪＡひまわり、ＪＡ菊池【直売所との関わり】**……産直出荷者組織協議会メンバーを女性部員としている（ひまわり） 直売所の出荷会員は女性部員加入が必須である（菊池） ☆**ＪＡあつぎ【１部会１人増員運動】**……支部の部会ごとに１人以上の増員を図るため目標を設定。女性部活動を紹介するパンフレットを作成し、全員で共有し加入促進を図っている。部員増員報告を行って、運動の成果を“見える化”している ☆**ＪＡ岡山県女性組織協議会【仲間づくり運動要領に基づく支援を活用して増員】**……ＪＡと協力して、ウオーキングや料理講習など気軽に参加しやすいイベントを企画。地域ごとに目標を設定し、オリジナル勧誘ちらしやプレゼントを用意してイベントへの“お試し参加”の声かけをして、増員につながった
☆**ＪＡいわて花巻【きらきら星サークル】**……各支部を中心に料理、手芸、読書ボランティアなどさまざまな活動を展開。学校や行政とも連携。活動参加を目的に地域住民が女性組織に加入するケースもある ☆**ＪＡ広島市【レディース講座】**……管内 18 会場で、共通テーマ“運動・ものづくり・美容”の座学３講座＋野外研修を実施。全体で合同閉講式を行っている。皆勤賞の方には記念品を贈呈している
☆**ＪＡグリーン近江【支店職員との懇談会】**……窓口・渉外職員と女性組織メンバーとのつながりが強化され、双方に好評である。土日にお菓子作りを行う支店もある。相互に組織活動への理解が深まっている ☆**ＪＡ福岡市【まめひめ】**……みそ造りを通じて、地域住民や子どもたちと一緒に活動することで、日本の伝統食である「みそ」の良さと食の大切さを次世代に受け継ぐことを目的とする女性グループの活動。本支店職員も参加し、組合員・地域住民、小学生・保育園児との交流を促進し、食農教育の機会になっている。また、ＪＡ事業や教育文化活動の説明も行い、事業利用拡大にもつなげている
☆**ＪＡ上伊那【役員手当、活動費】**……活動状況に応じて経費を助成。メンバーの帰属意識が高められている ☆**ＪＡひまわり【グループ活動助成】**……人数割により活動経費を助成。活動資材は受益者負担で、女性組織メンバーとしての会費の徴収はない ☆**ＪＡ広島市【事業利用、実際の活動に対する助成】**……記事活用研修や記事活用グループなど活動実態に基づき助成。また、活動助成ではないが女性組織メンバーから「子育て支援募金@ 100 円」を募り管内小学校へ『ちゃぐりん』の寄贈も行っている

	方向	ポイント
❹支店エリアの活動を重視する	（1） 支店エリアの活動を重視し、活性化させる	・支店エリア内にたくさんの活動グループをつくって、支店の活性化につなげましょう ・支店全体の職員理解で女性組織の活性化とＪＡ事業・地域の活性化に努めましょう ・支店に女性組織担当の職員を置きましょう ・支店長・支店職員の女性組織に関わる役割を分掌規程により明確化しましょう ・特定の職員に依存しない仕組みをつくりましょう ・支店運営委員会やふれあい委員会などと連携して、女性組織と支店の活性化につなげましょう 
	（2） 本店と支店の役割分担	・本店と支店の担当者が密接に連携・交流し、問題意識・方向性を共有しましょう ・男性・女性の性別によらず担当職員を配置しましょう ・女性組織事務局を経験してから支店に異動するなど、支店と女性組織との良好な関係構築に配慮しましょう ・支店の領域を越えて結成されるグループ情報などを全体で共有しましょう ・ＯＢ・ＯＧの再雇用や女性組織活動を支援するボランティアスタッフを募集するなど、ＪＡ外にも目を向けましょう ・ＪＡとして女性組合員の意思反映・運営参画の仕方を工夫して制度化しましょう 
	（3） 本店・支店の事務局職員の育成・スキルアップ	・担当職員の役割（実務者：マネージャー、企画者：プランナー、啓発者：エデュケーター、促進者：ファシリテーター）を認識し、スキルアップに努めましょう ・担当者会議や他部署の職員も入った研修会や活動発表会を開催するなどして、支店長を含めた職員の組織活動への意識向上と相互研鑽を促しましょう

具体例
☆**ＪＡいわて花巻【業務分掌表】**……女性部支部の事務支援は支店組合員課が担うこととしており、業務分掌表において支店長や組合員課長が責任者であることの役割を明確にしている ☆**ＪＡ筑前あさくら【①女性部サポーター制度】**……金融窓口担当職員にも女性部活動に協力・参加を求める制度**【②カローリング】**……年齢を問わず楽しめることから全地区（７地区）でカローリング大会をそれぞれ実施。小グループ毎にチームを作り、職員と女性部との交流・親睦を深める目的で（支店協同活動の一環）実施している。地区予選で選抜されたチームは本大会に出場。本大会ではＪＡ役員チームも参戦。女性部チームには職員も混ざり大いに盛り上がっている ☆**ＪＡあいち中央【がやがやワクワク会】**……❶（４）参照
☆**ＪＡあつぎ【活性化委員会】**……本部役員と女性理事で構成。女性組織のさらなる活性化及び組織基盤の強化に向けた取組方策や課題について、グループ方式で多様な意見が出やすいようにし、協議検討を行う ☆**ＪＡ小松市【“組合員の意思反映・運営参画要領”に基づく連携協力体制の構築】**……支部活動は支店長がメインとなるものの、支店長任せにならない体制づくりをすすめている ☆**ＪＡ広島市【ブロック内の支部活動を本部からフォロー】**……ブロック毎に配置した担当者は本部活動の集客、出欠等管理、旅行の引率等を行う。支部活動については、必要に応じて本部から出向いてフォローする体制を整えている
☆**ＪＡあいち中央【①ブロック会議】**……支店長、次長、くらしの相談員、ふれあい担当者が出席し毎月開催している。ブロック内で、統一事項の共有、協議事項については、問題意識をもち意見を出し合い改革していく場とする。**【②活動報告会】**……くらしの相談員が、年度初めに自身の活動テーマを決め、それに沿った活動結果を振り返り、次年度の活動につなげるため年１回開催している。　**【③家活グランプリへの応募】**……くらしの相談員の活動報告会で報告した料理教室や手芸教室の“家活”を応募している ☆**ＪＡ土佐くろしお【めだかの学校】**……『家の光』記事活用グループ。女性組織メンバーと職員をつなぐサークル活動として、職員の組織活動への意識を高めている

	方向	ポイント
❺家の光事業を活用して女性組織の存在価値を高める	（1） 日々の記事活用・文化活動で、くらしを豊かにしよう	・『家の光』を読んで知識を広めるとともに、ＪＡ運動への意識を高め、くらしを豊かにしましょう ・『家の光』を女性組織の活動にどう活用できるか考えましょう（たとえば：料理教室、手芸教室、健康教室、園芸教室、防災教室など） ・諸会合で『家の光』を読む機会を設けることで、他者の視点からの気づきと学びを得て、読書をつうじたメンバーの交流・相互理解をすすめましょう ・小グループ、目的別グループの活動に『家の光』を活用しましょう（たとえば：家の光記事活用グループから、ＪＡ事業・活動の活性化への発展……加工グループが新商品を開発、園芸グループが直売所に出荷、料理グループメンバーによるフレッシュミズへの伝承料理の講習会、など） 
	（2） 活動の成果を共有しよう	・女性組織による記事活用体験発表、作品展示など、自己表現の場としてＪＡ段階の家の光大会を充実させましょう ・支店窓口の「家の光ディスプレイコンテスト（記事活用作品や『家の光』読みどころなどの展示）」など、地域の拠り所としての支店を充実させましょう
	（3） 活動を地域に広げよう	・女性組織の取り組む地域貢献活動に、『家の光』の実用記事（料理、手芸、健康、園芸、防災など）を活用しましょう ・『家の光』に掲載されている女性組織の活動事例を、自身の女性組織の活動に取り入れましょう ・『ちゃぐりん』を活用して子どもたちへの読み聞かせや農業体験など食農教育をすすめましょう

具体例
☆第 66 回全国家の光大会（令和７年２月開催）記事活用体験発表より、日々の活用事例（概要抜粋） ・家族と一緒に『家の光』『ちゃぐりん』を読んで、環境問題や SDG ｓについて知識を深める ・記事で紹介されていた農業者に会いに行き刺激を受け、規模拡大や農業の魅力発信に取り組む ・園芸記事を活用して野菜栽培、生長の経過を仲間に LINE で共有している ・女性組織の役員会で JA のページを読み合わせ、協同組合理念を学ぶ
☆**ＪＡいわて花巻【きらきら星サークル】**……❸（３）参照 ☆**ＪＡ晴れの国岡山【家の光ライフプランセミナーを女性部と協力して開催】**……❷（１）－１参照 ☆**ＪＡ周桑【女性部田野支部　わくわくクラブ・集落別ミニグループ】**……❶（２）参照 ☆**ＪＡ土佐くろしお【めだかの学校】**……❹（３）参照 ☆**ＪＡにじ【家の光　お月見読書会】**……毎年開催のイベント。各地区代表者が『家の光』で心に残った記事をステージ上で朗読し、感想を話す。その後ゲストを招いた記念公演を行う ☆**ＪＡあまくさ【家活クラブ読書部】**……女性部の現役役員がメンバーとなり、『ちゃぐりん』を活用した手作り食農教育紙芝居で読み聞かせをするなど、多彩な活動を実践している
☆**ＪＡあきた北【女性部大会並びに家の光大会】**……活動発表のほか、地元中学生のヒップホップダンス、自給菜園コンクール表彰式、さまざまなカルチャー講座の発表を実施。800 人の女性組織メンバーが一堂に会し、支部間の相互交流と『家の光』の幅広い活用を図る ☆**ＪＡぎふ【家の光小グループ交流会“ときめきサロン”】**……❶（１）参照 ☆**ＪＡ筑前あさくら【家の光ディスプレイコンテスト】**……全支店でディスプレイを実施。女性組織メンバーは『家の光』記事活用作品の展示などで協力している
☆**ＪＡうつのみや【女性部の仲間で“畑の教室”】**……野菜づくりと、子ども食堂への野菜提供を行っている。『家の光』をテキストに野菜づくり、子ども食堂の献立に活用している ☆**ＪＡあつぎ【ＰＴＡ出前講座】**……❷（１）－３参照 ☆**ＪＡわかやま ありだ地域本部【防災活動】**……❶（２）参照 ☆**ＪＡあまくさ【家活クラブ読書部】**……❺（１）参照

2 実践！女性組織の仲間づくり

1．での自己点検をもとに、具体策を検討し、実践しましょう。以下のポイントも参考にしてみてください。

・活動……魅力あるコンテンツか？
・広報……活動を知らせる・知ってもらうには？
・教育……活動の成果としての学びや帰属意識は育てられているか？

（1）実践事例　――５つの方向具体例リスト 別表Ｂ（P32）を使いましょう

【リストの概要】

①Ⅲ章の「５つの方向」とそれぞれの方策、さらに対応する具体例を一覧できるリストにしています。

② 別表Ａ（P30）の「対応する方向」からも、各項目を参照できます。

③具体例の詳細（一部ＪＡを除く）は、「教育文化活動ＪＡ実践事例データベース」に掲載されています。→

事例閲覧パスワード　→　jireija

【リストの活用方法】

① 別表Ａ の現状分析をもとに、充実･改善したい方策の事例を参照しましょう。

②「教育文化活動ＪＡ実践事例データベース」にアクセスしたら、事例を深堀りするとともに、他の事例も検索してみましょう。

③事例を女性組織メンバーと共有し、実践方策を具体化しましょう。

④女性組織やＪＡの役員会など、しかるべき組織協議を経て実践につなげましょう。

（2）未来を描こう……課題解決型組織への変革

①委員会やプロジェクトチームの立ち上げ

ＪＡ役職員と女性組織が一体となり、女性組織の仲間づくりを推進し、活動の活性化を図りましょう。それがＪＡの組織基盤強化につながり、ＪＡ事業や経営に好影響を与えることで、女性組織の活動が盤石になります。

さまざまなＪＡで、活動や運営体制の見直しをすすめる「女性組織活性化委員会」などが設置されています。

委員会やプロジェクトチームのメンバーは、たとえば以下のとおりです。

女性組織……役員、支部長ら　＋　女性理事、女性総代
Ｊ　　Ａ……常勤役員、担当部課長、支店長、事務局担当者

委員会やプロジェクトチームのめざすことを明確にし、事前に集まる回数やスケジュールを決めておくと良いでしょう。

外部の有識者を招いた学習会や、テーマを設定した少人数のグループワークによるアイデア出し、他ＪＡへの視察（親睦を深める旅行も兼ねる）を取り入れるなど、ＪＡ事業で行ってきたノウハウを女性組織の活性化にも生かしましょう。

②魅力的な活動テーマの設定へ･めざすことを明確化（活動方針などの策定）

いまある女性組織の規約や設置要領を参考にしつつ、今日的な結集軸となる活動方針を打ち出しましょう。毎年活動テーマを決めている女性組織もあります。

他部署の職員や関係団体、青年組織など、女性組織の外側からの意見も聞きながら、女性組織の存在価値を見直しましょう。

受益者負担や加入条件、男性の加入など、他ＪＡの事例も参考にしながら、組織のあり方を検討しましょう。

③ＪＡ役員との接点づくりで意見を反映（意見交換会などの実施）

メンバーの願いやニーズを実現するには、ＪＡ役員の理解は不可欠です。年１回はＪＡ役員とＪＡ女性組織メンバーとの意見交換会を実施しましょう。

意見が出やすいように一緒にそば打ちをしたり、各支部の代表メンバーと全てのＪＡ常勤役員が意見交換したり、ＪＡによってさまざまな工夫もなされています。

意見交換会で出た意見が反映されれば、さらに組織の結集力は高まります。

（３）ＳＮＳを有効活用しよう……仲間づくりに新たなツールを

ＳＮＳ（LINE、Facebook、X、TikTok、YouTube、Instagramなど）の進化はめざましいものがあります。女性組織の活動にも積極的に有効活用し、既存メンバーへの情報共有や地域住民へのＰＲを意識して戦略的に利用していきましょう。

ここでは、女性組織の活動によく利用されているLINEとInstagramの機能および活用方法についてご紹介します。

①タイムリーな情報共有、メンバーへの周知、活動の紹介に……ＬＩＮＥ

個人間や仲間同士で気軽に連絡することができたり、スケジュール調整などができます。テキストメッセージだけでなく、スタンプと呼ばれる画像、写真、音声、動画の送受信や、音声通話、ビデオ通話もできます。

ＬＩＮＥユーザーと「友だち」になることで、メッセージを交わしたり、さまざまな情報を受け取ったりするなどのコミュニケーションをとることができます。また「オープンチャット」は友だちでなくても共通のテーマや話題で情報をやりとりできます。

【事例紹介】ＪＡにしうわ フレミズ部会 オープンチャット

ＪＡにしうわでは、フレミズ部会でオープンチャットを開設しています。参加対象は支部がない部員や、活動に興味がある女性部未加入者です。各支部の活動を案内することで、「活動はしたいけれど参加できる場がない」という人の受け皿になっています。

＊ LINE のオープンチャットは、誰でも参加できるグループを作って、友だちではないユーザーとも交流できる機能です。

②活動の広報とつながりづくりに……

Instagram

文章とともに、写真や短い動画を配信することができます。「フォロー」「いいね」「コメント」「シェア」などの機能でつながりが広がります。

配信する短い動画を「リール」と呼びます。リアルタイムで動画を配信する「インスタライブ」という機能もあります。

ＪＡ女性部公式アカウントでの発信やメンバーが個人で発信する際には、文章のキーワードにハッシュタグをつける（#ＪＡ〇〇女性部 など）と、他のインスタグラムを利用している人がそのキーワードを検索して、写真や動画を見つけやすくなります。

③ＳＮＳを上手に利用しよう

活動を知ってもらうことで、とくにＳＮＳユーザーの多いフレッシュミズ層のメンバー拡大のきっかけになります。

メンバー自らが女性組織活動の情報を発信することによって、事務連絡にとどまらない“認知”が広がります。

また、連絡ツールとして活用することは、電話や郵送が主な連絡手段であったこれまでと比べると、事務運営の簡素化になり、女性組織役員や事務局の負担軽減にもつながります。

なお、プライバシーを侵害するなど運用の方法を間違えると、思わぬトラブルが発生し交流の妨げになりますので、活用の際には十分な注意が必要です。

Ⅴ 女性組織の仲間づくりを支援する家の光事業

1 記事活用の促進とセミナー・研修会の開催

（1）くらしに役立つ記事の活用

『家の光』では、女性組織の活動に生かせるさまざまな企画を掲載しています。身近な例でいえば、料理をつくる、手芸作品をつくる、簡単なヨガや体操で体を動かすなど、日々のくらしにすぐに役立つ生活実用記事があります。

（2）知識を広め、深める記事の活用

ＪＡ運動の実践者としての女性組織メンバーの活動を支援するため、全国各地の女性組織の活動実践事例や協同組合理念の学習に関する記事を掲載しています。

（3）「食と農」「防災」を主要テーマに記事活用を促進

女性組織の皆様をはじめとする読者の皆様の声を反映し、これから記事で扱う大きなテーマとして「食と農」「防災」を掲げています。

「食と農」「防災」に関する記事を活用した「防災食料理教室」「防災セミナー」への資材提供などにより、活動を支援します。

このほかにも、くらしに密着したテーマで記事を掲載し、記事と連動した資材の提供や、記事活用の手法・ノウハウを提案します。

（4）テーマに沿った講師陣のあっせん

『家の光』『地上』『ちゃぐりん』『やさい畑』「家の光図書」「ＪＡ教育文化Ｗｅｂ」に登場する著名人らは、許可を得られた場合、ＪＡが取り組む事業や活動の趣旨をご理解いただいたうえで、家の光協会講師あっせんリストに登録しています。全国各地（講師によっては地域を限定）に出講可能です。

料理や健康づくりの講師から、楽しく笑えてためになる講師、さらには農業情勢や協同組合学習の講師まで、幅広いメンバーを登録しています。

（5）役職員の理解促進（トップフォーラム、研究集会、教育文化プランナー）

ＪＡ役員や幹部職員の皆様向けには、「家の光文化賞ＪＡトップフォーラム（組合長・常勤役員ら対象）」「ＪＡ教育文化活動研究集会（部課長、支店長ら対象）」といったフォーラム、研究集会を毎年、全国規模で開催しています。

また、ＪＡ教育文化活動のキーマンとなる担当部課長らを対象に「教育文化プランナー」を委嘱しています。組織基盤強化に資する教育文化活動の取り組みが、点から線へ、面へと広がるよう、活動の軸をなす役職員らを支援し、ＪＡファンづくり、元気づくりにつなげています。

（6）事務局職員の育成（パワーアップ研修会）

「ＪＡくらしの活動（生活文化活動）担当者パワーアップ研修会」は、家の光事業や生活文化活動、くらしの活動、女性組織の担当者らを対象に、毎年、全国規模（東西２地区）で開催しています。実務者である担当者が一堂に会し学習、意見交換、親睦を深める機会となっています。

2 全世代型食農教育活動の支援

（1）子育て世代に響く提案

食農教育をすすめる子ども雑誌『ちゃぐりん』の普及活用運動を展開しています。ＪＡが開催している「ちゃぐりんフェスタ」での記事活用や、「あぐりスクール」のテキストとしても活用されています。

女性組織の活動として『ちゃぐりん』を小学校へ寄贈している事例もあります。

これからの女性組織の活動を担う次世代層（フレッシュミズ層）は子育て世代でもあり、ＰＴＡ出前講座で『ちゃぐりん』を活用した食農教育を実践している事例もあります。

（2）大人の食農教育、料理教室

「ＪＡから発信　大人の食農教育“まなＶＩＶＡ！”」は令和7年度からスタートしました。全国のＪＡで開催されている「クッキング・フェスタ」のノウハウを生かしながら、「食と農」「健康」をテーマとするプログラムをパッケージで用意します。広く一般の方にＪＡの取り組みを知ってもらい、ＪＡファンづくりにつなげる事業です。新たなメンバー拡大のきっかけにもなります。

「ＪＡ家の光（親子）料理教室」は、『家の光』などの企画内容をいち早くお伝えし、記事活用をさらに促進します。

さらに「ザ・地産地消家の光料理コンテスト」には、毎年、全国各地の女性組織や料理グループからの応募があり、活動を活性化するきっかけの一つとなっています。

3 組織基盤強化支援――「ＪＡサテライト プラス」の展開

（1）新規事業「ＪＡサテライト プラス」

令和8年度から新規事業として「ＪＡサテライト プラス」をスタートする予定です。

ＪＡと組合員・地域住民との接点を創出することをねらいとし、ＪＡファンづくりや組織基盤強化の基軸となる「人が集まるＪＡ」づくりをめざしています。

（2）「ＪＡサテライト プラス」の特長

①ＪＡが行う「生活文化教室」「教育・教養講座」や各種研修の開催を支援する資材（配信動画、キットなど）を、家の光協会が提供します。

②ＪＡは、事前収録したさまざまなプログラムから、対象者に合わせたものを選んで実施することができます（動画を流す設備があれば開催可能です）。

③参加者用のキットを事前送付しますので、ＪＡでの資材準備は不要です。

④動画を見るだけではなく、実際に手や体を動かすワークショップ要素を盛り込んだ内容であるため、参加者は“ＪＡに足を運ばないとできない体験”が得られます。

（3）女性組織の仲間づくりに生かすポイント

①女性組織の仲間になってしてほしい地域住民に対して、ハードルの低い・間口の広い「入口」の活動として実施できます。

②「人が集まる」活動拠点として支店を生かせます。

③イベント開催時のＪＡ職員の負担を軽減できます。

女性組織の仲間づくりを支援する家の光事業

記事活用

内容	活用方法
・読書会	気に入ったページの紹介（リード＆トーク）、記事を読んで感想を発表、黙読、順番に輪読など、自分たちに合った方法で ＊毎月「読書会の手引き」が家の光協会のウェブサイトに掲載されています
・料理教室、手芸教室、園芸教室、防災セミナーなど、各種教室・講座	料理カードなど料理記事の活用 ハンドメイド記事、園芸記事の活用 防災関連企画の活用
・記事活用グループの結成	料理、手芸、園芸、食品加工、読み聞かせなどさまざまなグループが全国で活動中
・ＪＡ家の光大会、グループ交流会	記事活用体験発表、記事活用作品展示など、自己表現＆学習・交流の場に
・家の光ディスプレイコンテスト	地域の拠り所としての支店に彩りを添える、記事活用作品や『家の光』読みどころなどの展示

全世代型食農教育支援

内容	活用方法
・ちゃぐりんフェスタの開催支援	工作や園芸に『ちゃぐりん』記事活用 記事の内容からクイズを出題
・あぐりスクール開講支援	工作や園芸に『ちゃぐりん』記事活用 記事の内容からクイズを出題 スクールのテキストとして通年活用
・家の光（親子）料理教室、家の光クッキング･フェスタの開催支援	『家の光』『ちゃぐりん』「家の光図書」などの料理記事を活用 エーコープマーク品の消費拡大にも
・「ザ・地産地消家の光料理コンテスト」	料理記事を参考にレシピ開発 高校・大学からの応募促進で相互交流 レシピを広報誌・直売所で活用
・まなＶＩＶＡ！（ＪＡとの共催）	＊令和７年度からの新規事業（食・農・健康をテーマに家の光協会から講師＋プログラムをパッケージ提案）

組織基盤強化支援

内容	活用方法
・ＪＡサテライト プラス（ＪＡが加入）	＊令和８年度からの新規事業（家の光協会から動画、資材を提供）

おわりに
ＪＡ新時代の女性組織づくりを

ＪＡ女性組織仲間づくり検討委員会　コーディネーター
滋賀県立大学名誉教授　増田佳昭

本報告書は、令和6年8月から令和7年3月にかけて「ＪＡ女性組織仲間づくり検討委員会」を設置し、４回の研究会を開催して検討した結果をとりまとめたものです。それぞれのＪＡの実践を持ち寄り、熱心に討議いただいた委員の皆様に深く感謝申しあげます。また、事例調査にご協力いただいたＪＡひまわり、ＪＡあいち中央、ＪＡ上伊那の皆様にお礼申しあげます。また、毎回の討議結果を記録し、チェックシートと詳細な具体例リストづくりを行ってくれた家の光協会事務局の皆様にもお礼申しあげたいと思います。

ＪＡ女性組織の弱体化が叫ばれて久しいですが、メンバー数の減少や高齢化が指摘される反面、さまざまなかたちでグループ活動が活発になってきています。本報告書では、後者のグループ活動の活性化のためにこれからの活動に期待される内容を具体的に示すとともに、そうした活動をより励ますための枠組みはどうあるべきかを考えてみることに留意しました。その基本的な視点が、タイトルに示された「楽しく」と「フラット」の２つのキーワードです。

「楽しく」というのは、いうまでもなく女性組織メンバーにとっての活動の「魅力」を意味します。活動が自分たちのニーズや期待に基づいたものであって、参加することに「楽しさ」を感じることがなければ、参加意欲は湧いてきません。「楽しさ」の中には、個人のニーズ充足のための趣味や活動が含まれますが、人のために役立ちたいといったやりがいや社会的な承認も含まれるものです。メンバーの期待に応え、その満足度を高めるような活動内容（コンテンツ）が活動の活性化に最も重要だということです。

もう一つの「フラット」は「ピラミッド」の対比で使っています。ＪＡにおける女性組織の基本的な構造は、「支部」を基本にして、その上に「本部」が存在するピラミッド型構造でした。ＪＡによっては、「支部」の下に「班」が、「支部」と「本部」の間に「地区」があったりします。この構造は、地域に居住する女性を網羅的に組織していたかつての地域婦人会に由来します。班から支部へ、支部から本部へと役員が段階的に選出されるために、メンバーにとっての役員負担が重く感じられ、場合によっては支部の解散が生じ、結果として支部に所属しない個人会員などが生まれることになっています。

「フラット」な仲間づくりは、これから女性組織メンバーを増やしていく上では、入りやすい、活動しやすい、開放的な組織形態が不可欠だということを意味しています。それは同時に、役員負担が過重にならない組織のあり方も意味しているのです。ＪＡ女性組織も「組織」であるからには、グループ活動をリードし、対外的に代表する上で「役員」は不可欠ですが、役員数や選出方法、会議負担の軽減など必要な改善が不可欠となっています。メンバーが参加しやすく活動しやすい組織のあり

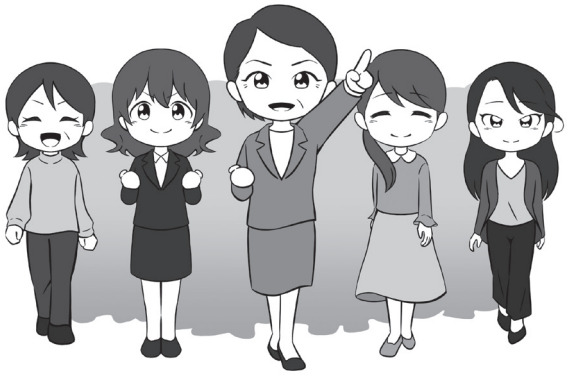
方についても、考えてみる必要があります。

さて、本報告書では、いくつかの問題提起をしています。第１は、女性組織の結集軸を「地域軸」「世代軸」「テーマ軸」の３つに整理し、「テーマ軸」の活動と組織づくりこそがこれからの女性組織の基本方向であるとしています。ＪＡ女性組織の新たなメンバー結集にあたっては、活動の目的と内容こそが最重要だということです。

第２は、ＪＡ女性組織の存在価値をあらためて問い直したことです。報告書では、「メンバーにとっての存在価値」、「ＪＡにとっての存在価値」、「地域社会にとっての存在価値」としています。メンバーにとって価値があればいいのではないかとの声もあるかもしれませんが、ＪＡ女性組織は「ＪＡ」の女性組織です。ＪＡとの関わりは不断に問い直していくべきだと考えます。

第３は、女性組織活性化の課題ごとに、具体策を示したことです。テーマ軸のグループ活動強化、メンバーの拡大と活動の充実、ＪＡの女性組織であることの重視、支店単位の重視、家の光事業の活用といった課題ごとに、現状分析のための「チェックシート」と具体例を示す「事例リスト」を作成しました。ぜひご活用ください。

それぞれのＪＡで、女性組織のあり方を本格的に検討する機会は少ないのではないかと思います。しかし、ＪＡとＪＡ女性組織を取り巻く環境はすでに大きく変わっていますし、これからも着実に変化していきます。ＪＡ女性組織の将来へのばくぜんとした不安や懸念は、多くのＪＡ関係者や女性組織の当事者たちも感じていることと思います。この機会に、プロジェクト･チームを設置するなどして、女性組織の現状と今後の方向について正面から検討してみてはどうでしょうか。その際にはぜひこの報告書をご活用いただければ幸いです。



ＪＡ女性組織仲間づくり検討委員会　設置要領

令和６年６月
一般社団法人　家の光協会

１．趣　旨

第30回ＪＡ全国大会議案において、組織基盤強化は重要な戦略（仲間づくり戦略）として位置づけられている。しかし、組合員の多様化･高齢化に加え、厳しさを増す農業経営、国際情勢が不安定ななかでの食料安全保障など、営農から生活にいたるくらしの全般にわたり、ＪＡは大きな課題に直面している。

ＪＡ女性組織においては、全国各地で活発な活動が展開されているものの、部員や活動参加者の減少、高齢化と世代交代、支部の解散、活動の停滞などの課題にたいし、運営体制や活動の見直しを迫られている。組織の再編や目的別グループの育成など、情勢に応じて変化をしている組織もあるが、多くの女性組織は課題解決の途上にある。

そこで本委員会では、ＪＡ女性組織がこれからも、地域を元気にする「なくてはならない組織」であり続けるために、さまざまな活動をつうじた「仲間づくり」の方策について研究･検討する。

２．研究テーマ

（１）「仲間を増やす」活動の具体策

①誰が、誰を、何のために、仲間にするのか？
　フレミズ世代、子育てママ、子育てひと段落のママ、若手非農家、
　若手農業者、元気高齢者
②段階的に考える活動内容
　接点づくり（広報･ＳＮＳの活用と、魅力的な活動メニュー）
　　～つなげる（グループ育成、組織化、集い学ぶ喜びの共有）
　　～ＪＡ組織基盤強化へ（ＪＡや地域への関りを深めるしかけ）
　　～ＪＡ経営基盤強化へ（活動の活性化とＪＡ事業の相乗効果）

（２）「仲間をつなぐ」組織運営の体制

①ＪＡの事務局体制、女性組織の運営体制（ＳＮＳの活用含む）
②事務局は、何をめざして女性組織を活性化するのか
③担当職員と他部署職員それぞれの理解を得るには
④本店･支店の役割、トップの役割、担当部課長の役割、担当者の役割

（3）「仲間づくりに生かす」家の光事業

①家活（家の光記事活用）、記事活用グループ、読書会

②教育文化活動

３．メンバー

＜コーディネーター＞

滋賀県立大学名誉教授　　増田佳昭 氏

＜委　員＞

ＪＡ	担当部課長	６名
ＪＡ全中	担当部課長	１名
家の光協会	常勤役員	２名
合計		９名

＜オブザーバー＞

ＪＡ全国女性組織協議会	役員	１名

４．任期および開催予定

任期は令和６年７月から令和７年３月までとし、計４回を目途に開催する。

「ＪＡ女性組織仲間づくり検討委員会」名簿

≪コーディネーター≫

滋賀県立大学　名誉教授　増 田　佳 昭

≪委　員≫

岩手県ＪＡいわて花巻	企画管理部次長兼企画課長	佐藤　道輝
神奈川県ＪＡあつぎ	組織文化部次長	落合　恵美子
石川県ＪＡ小松市	総務部組合員相談課長	下道　裕
滋賀県ＪＡグリーン近江	管理部総務課長	福田　真由美
広島県ＪＡ広島市	生活事業部地域ふれあい課長	上田　千春
福岡県ＪＡ筑前あさくら	総合企画部長	濵﨑　俊充
ＪＡ全中	ＪＡ改革･組織基盤対策部 くらし･高齢者対策課長 兼女性組織対策室長	奈良　千尋
家の光協会	代表理事専務	木下　春雄
	常務理事	新美　健司

≪オブザーバー≫

ＪＡ全国女性組織協議会　理事　　永吉　ゆりか

（敬称略。役職は令和７年３月時点）

ＪＡ女性組織仲間づくり検討委員会
開催経過

第１回

開　催　日　令和６年８月２２日

研 究 内 容　ＪＡ女性組織の現状と課題

第２回

開　催　日　令和６年１０月１６日

研 究 内 容　現地ＪＡヒアリング報告（ＪＡあいち中央、ＪＡひまわり）
「ＪＡ女性組織活性化検討委員会」報告
ＪＡ女性組織の存在価値、活動と組織の課題

第３回

開　催　日　令和６年１２月２８日

研 究 内 容　現地ＪＡヒアリング報告（ＪＡ上伊那）
報告書の構成（案）

第４回

開　催　日　令和７年３月６日

研 究 内 容　第１回～３回を踏まえた全体の統括
報告書の構成（案）

『家の光』創刊100周年